



# 1. インターンシップの基本情報

# 1. エグゼクティブサマリー

- ✓ 第一章では、「学生が選ぶインターンシップアワード」実行委員会によって調査された分析結果を記載しております。
- ✓ 本調査においては、従前明らかではなかったインターンシップの「実効果」に焦点を置き、その傾向を文理別等で表示しております。

## 1-1. インターンシッププログラムについて

インターンシップの参加時期や、期間、内容、得られる体験といった、基本的な要素の傾向について分析しております。また、それらの要素が学生の志望度にご影響しているか等、クロス分析も交えてその効果を明らかにしています。

## 1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

このパートでは、インターンシップで得られた効果について、具体的な質問項目をもとに学生の感想を定量的に表示しています。また、実際に参加したことで、学生の心情変化についても示唆が得られるものとなっております。

## 1-3. インターンシップ効果尺度

このパートでは、インターンシップを効果測定するにあたり、学生に具体的に与えた影響を分析しております。開催したインターンシップの成果を推し量るにあたって、有益な示唆が得られるものとなっております。

## 1-4. インターンシップを経験したその後の変化

このパートでは、インターンシップに参加した後に、具体的に变化した行動や心境を分析しております。主に学生の実感値を知るにあたって、効果的な示唆が得られるものとなっております。

## 1-5. 満足度について

最後のパートでは、インターンシップに関する全体観の調査結果を記載しております。

## 1-1. インターンシッププログラムについて

## 1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

## 1-3. インターンシップ効果尺度

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

## 1-4. インターンシップを経験したその後の変化

## 1-5. 満足度について

## 1-1. インターンシッププログラムについて

## 1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

## 1-3. インターンシップ効果尺度

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

## 1-4. インターンシップを経験したその後の変化

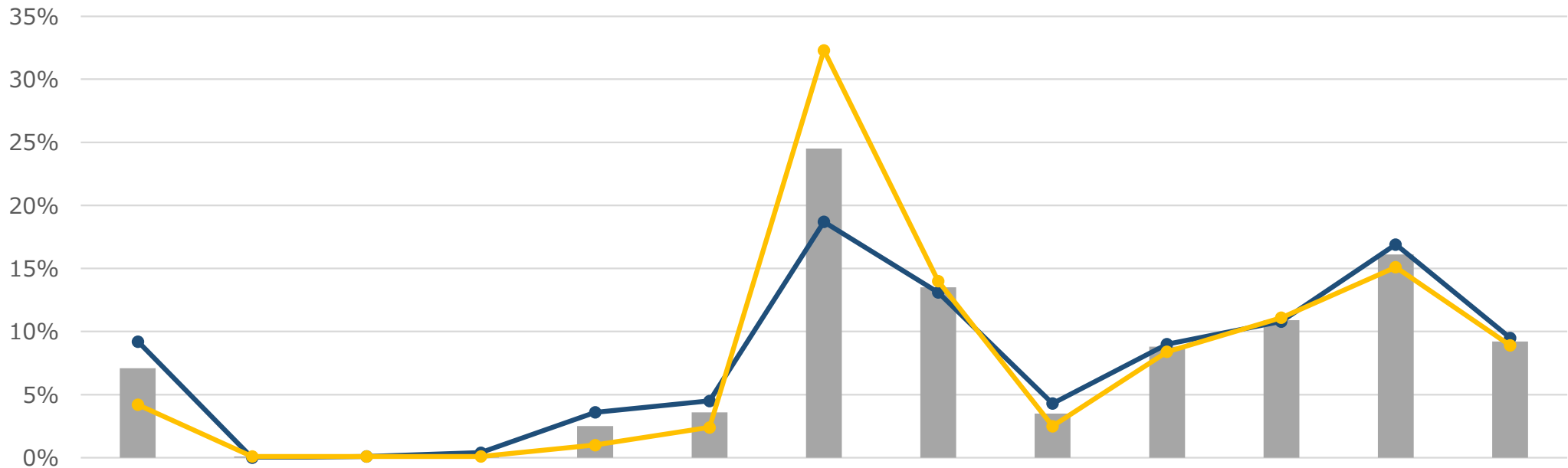
## 1-5. 満足度について

# インターンシップ参加時期



- ✓ 文理ともに参加時期は、大学夏季休暇期間である8月・9月に集中し、特に理系学生は8月に集中している
- ✓ 休暇後の10月は著しく参加率が低下するも、1月まで右肩上がりに参加率が回復している

インターンシップ参加時期  
\* 複数月にわたる場合は開始月



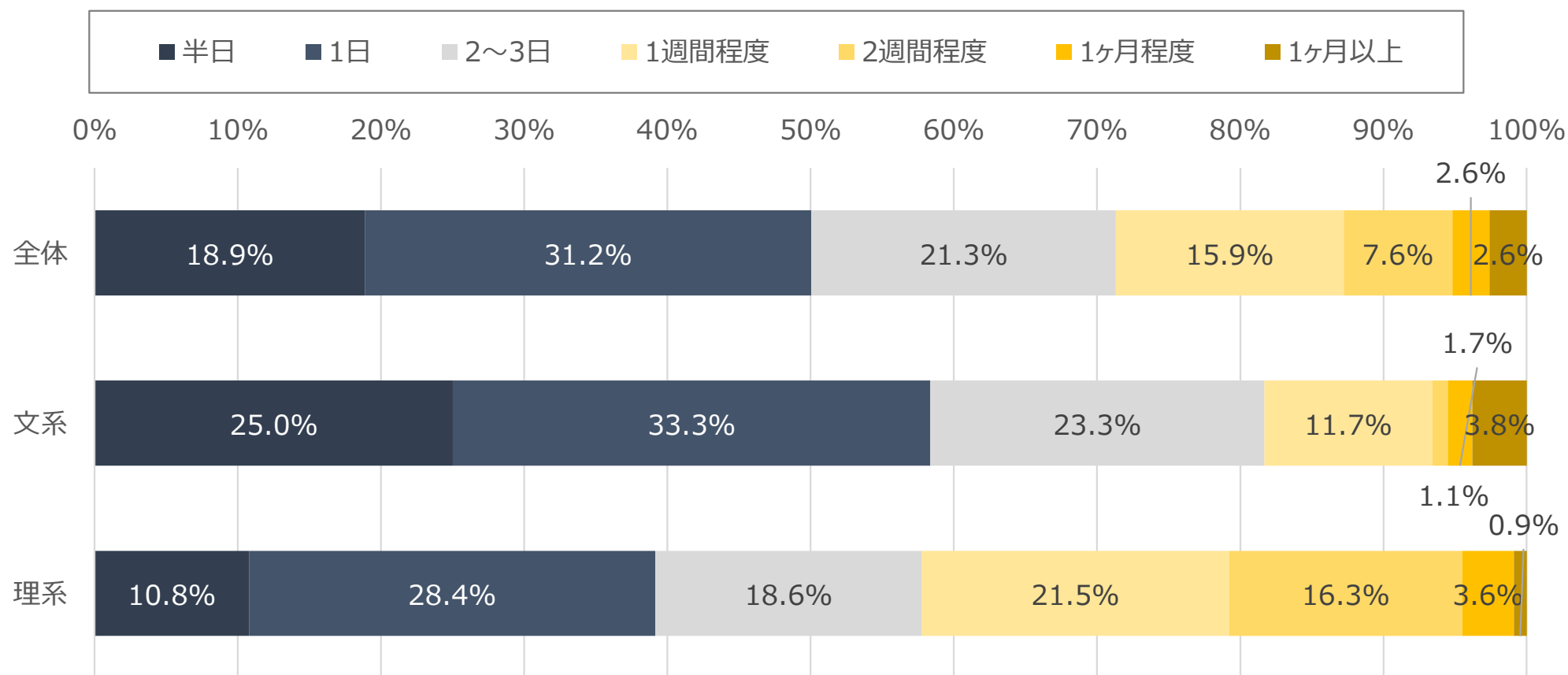
	2019年2月	2019年3月	2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月
■ 全体 (n=4,235)	7.1%	0.1%	0.1%	0.2%	2.5%	3.6%	24.5%	13.5%	3.5%	8.8%	10.9%	16.1%	9.2%
● 文系 (n=2,422)	9.2%	0.0%	0.1%	0.4%	3.6%	4.5%	18.7%	13.1%	4.3%	9.0%	10.8%	16.9%	9.5%
● 理系 (n=1813)	4.2%	0.1%	0.1%	0.1%	1.0%	2.4%	32.3%	14.0%	2.5%	8.4%	11.1%	15.1%	8.9%

# インターンシップ参加期間



- ✓ 文理ともに最も多い参加期間は「1日」という結果が明らかになった
- ✓ 文系は短い期間・長い期間の2極化傾向がみられる一方で、理系は比較的に長期参加が多い傾向がみられた

インターンシップ参加期間

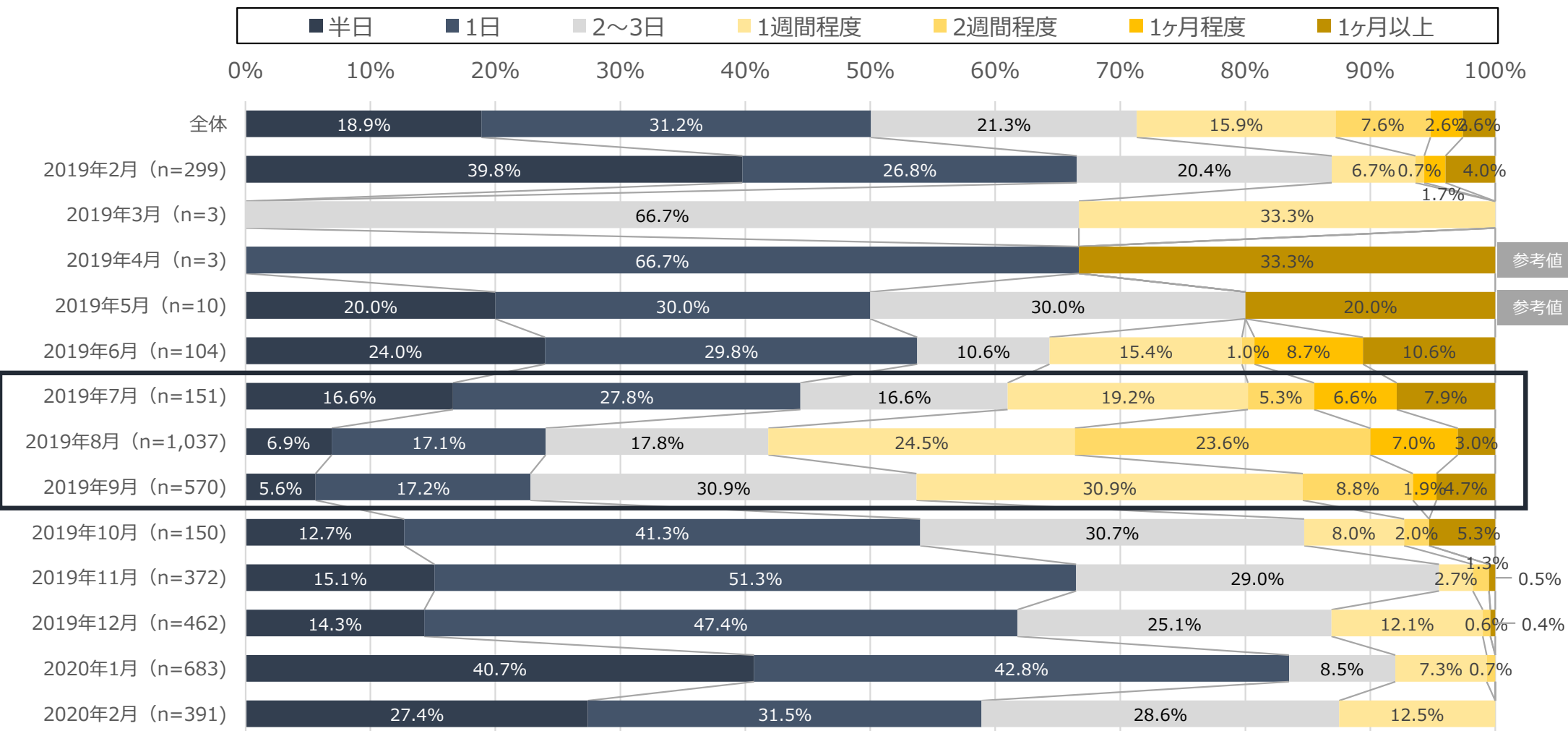


# インターンシップ参加時期（開始月）と参加期間の関係

✓ 夏季（7~9月）は、参加期間の長いインターンシップに参加している傾向が高い

✓ 秋~冬（10月~1月）は、夏季期間と比較して参加期間の短いインターンシップに参加している傾向が高い

「インターンシップ参加時期」×「インターンシップ参加期間」のクロス集計



# インターンシップ参加期間と志望度の関係

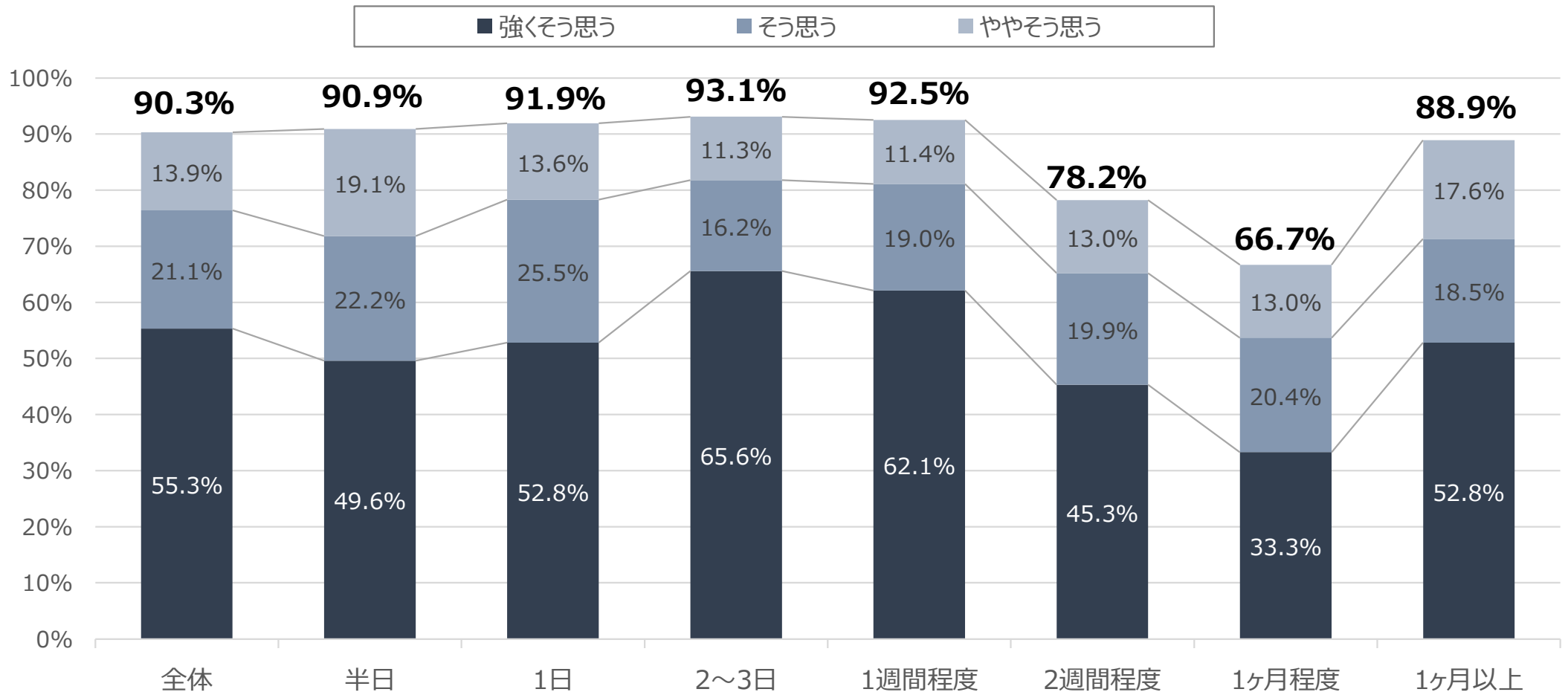


- ✓ 最も志望度が向上したのは参加期間が「2～3日」と回答した学生
- ✓ 「2週間程度」「1か月程度」でやや志望度が下がり「1か月以上」で再び向上する

\* インターンシップへ参加した企業への志望度を7段階で調査そのうち「ややそう思う」～「強くそう思う」のみを抜粋

「インターンシップ参加期間」と「インターンシップ参加企業への志望度（\*1）」のクロス集計

（※1）「インターンシップ参加後、参加企業に対する志望度が上がったか」



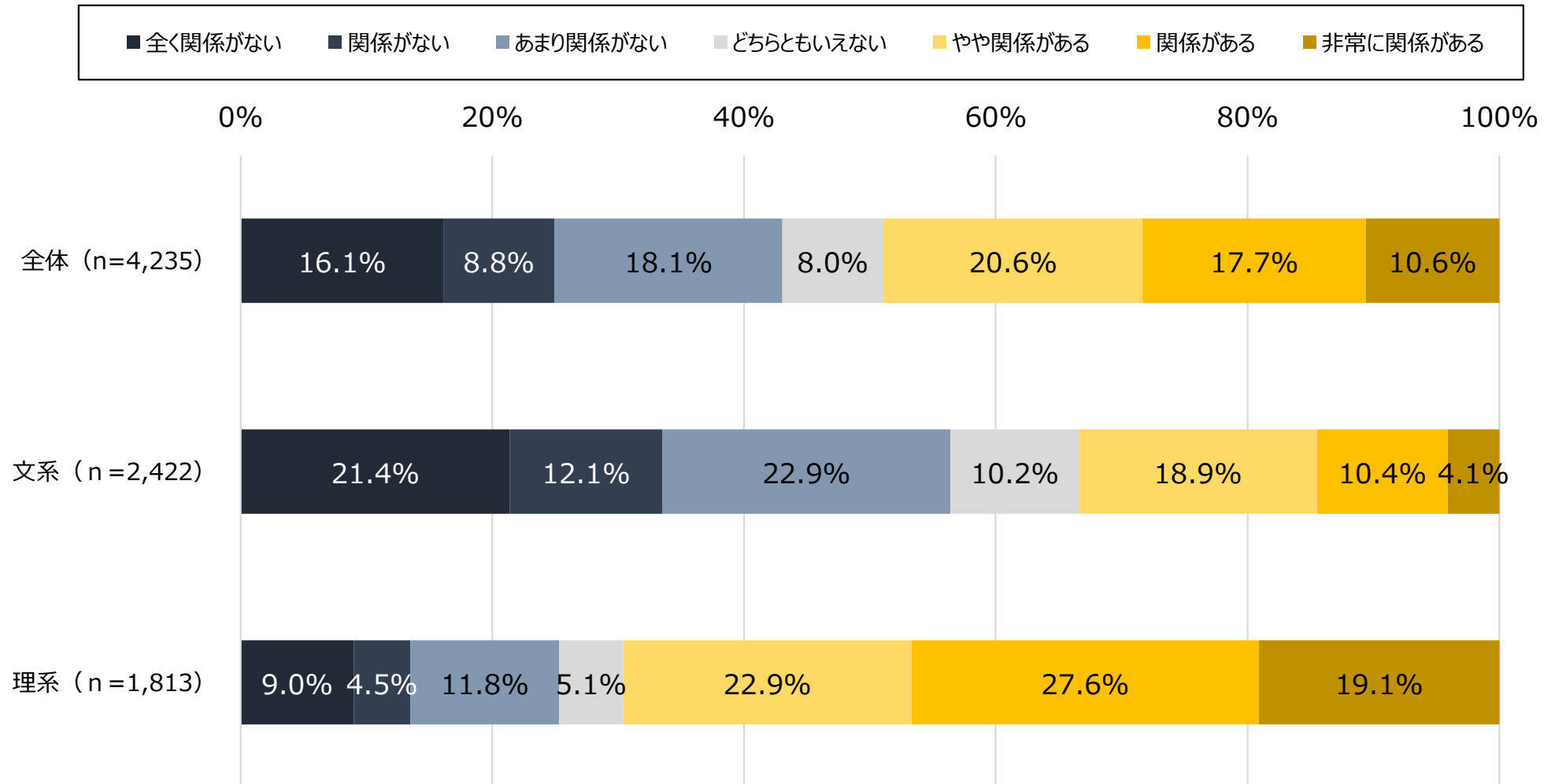


# 参加したインターンシップの内容と大学等での専門・専攻との関係



- ✓ 理系は文系より大学等での専門・専攻に関するインターンシップに参加する割合が高い
- ✓ 文系の約56%は、専門・専攻に関係のないインターンシップに参加している

参加したインターンシップの内容は、あなたの大学等での専門・専攻とどの程度関係があるか

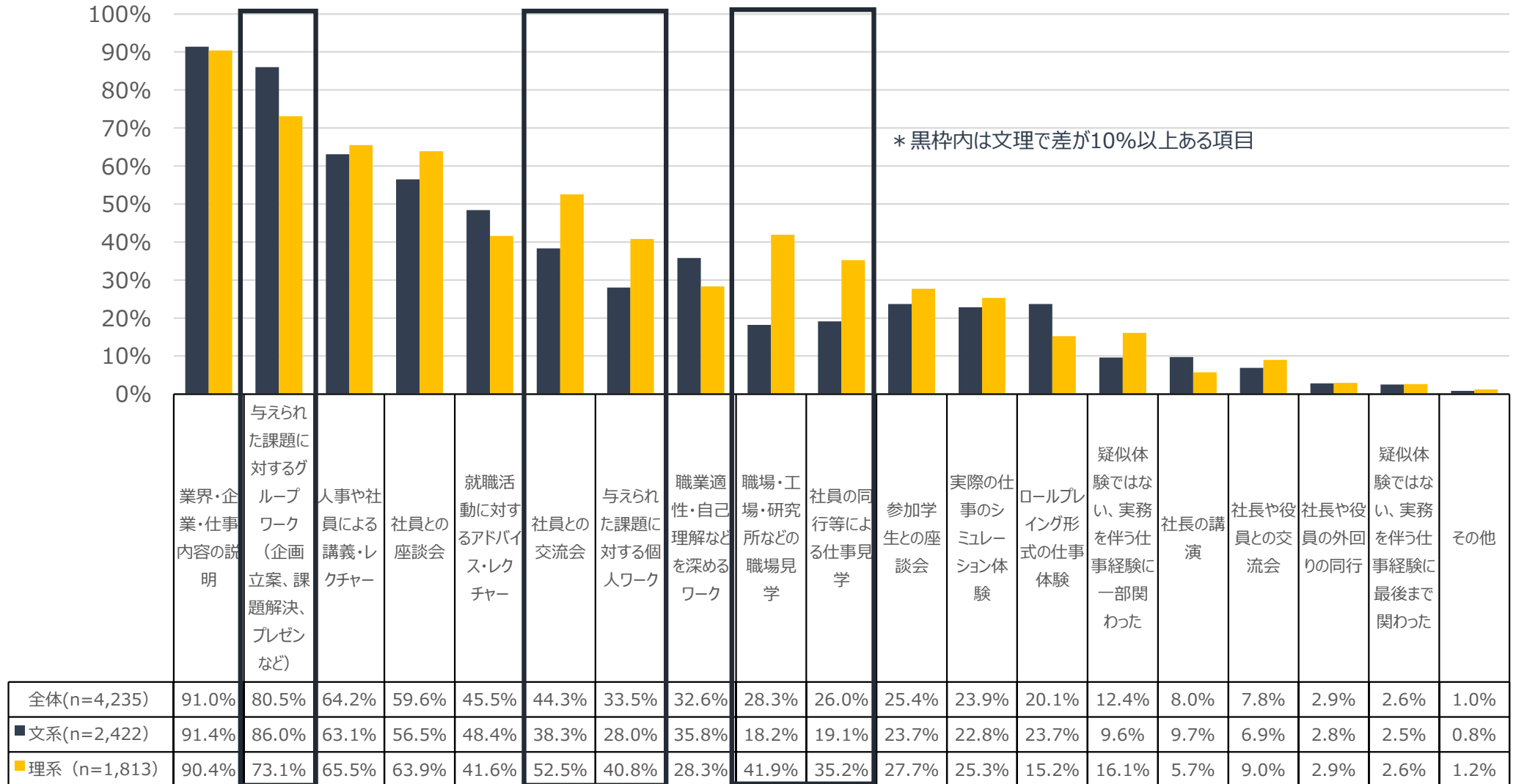


# インターンシッププログラムの内容について①



- ✓ 理系は文系と比較して、「社員との交流」「個人ワーク」「職場見学」「仕事見学」に該当する内容に参加する傾向がみられた
- ✓ 文系は特筆して差のある項目はみられなかったが、グループワーク内容のインターンシップに参加傾向が高いことが明らかになった

参加したインターンシップの内容はどのようなものだったか（あてはまるもの全て）

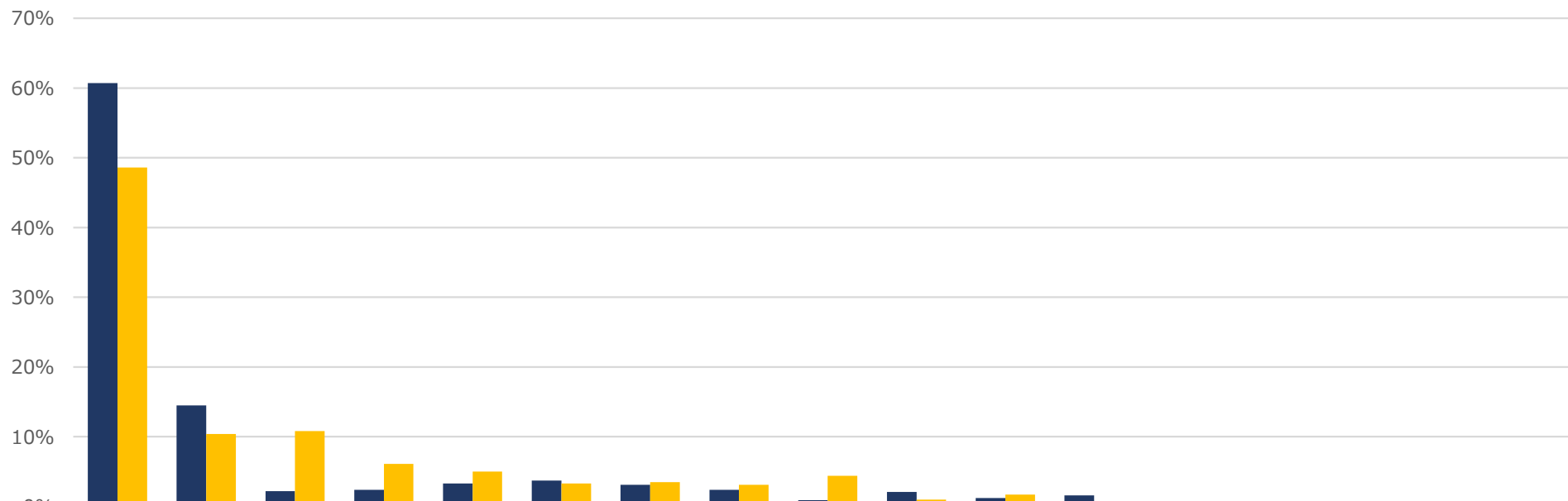


# インターンシッププログラムの内容について②



✓ 理系と文系の大きな差は、課題に対する取り組み方であり、文系がグループワーク、理系が個人ワーク内容を中心に体験している

参加したインターンシップの主な内容はどのようなものだったか。（最も長い時間をかけて行われたものを1つ選択）



	与えられた課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど）	業界・企業・仕事内容の説明	与えられた課題に対する個人ワーク	疑似体験ではない、実務を伴う仕事経験に一部関わった	実際の仕事のシミュレーション体験	ロールプレイング形式の仕事体験	人事や社員の講義・レクチャー	社員の同行等による仕事見学	職場・工場・研究所などの職場見学	職業適性・自己理解などを深めるワーク	疑似体験ではない、実務を伴う仕事経験に最後まで関わった	就職活動に対するアドバイス・レクチャー	社員との座談会	その他	社長や役員の外回りの同行	社員との交流会	社長の講演
全体(n=4,235)	55.5%	12.7%	5.9%	4.0%	4.0%	3.5%	3.3%	2.7%	2.4%	1.6%	1.4%	1.1%	0.7%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%
■文系(n=2,422)	60.7%	14.5%	2.2%	2.4%	3.3%	3.7%	3.1%	2.4%	0.9%	2.1%	1.2%	1.6%	0.7%	0.4%	0.5%	0.2%	0.1%
■理系 (n=1,813)	48.6%	10.4%	10.8%	6.1%	5.0%	3.3%	3.5%	3.1%	4.4%	1.0%	1.7%	0.3%	0.7%	0.7%	0.1%	0.3%	0

# インターンシップでのフィードバックについて①

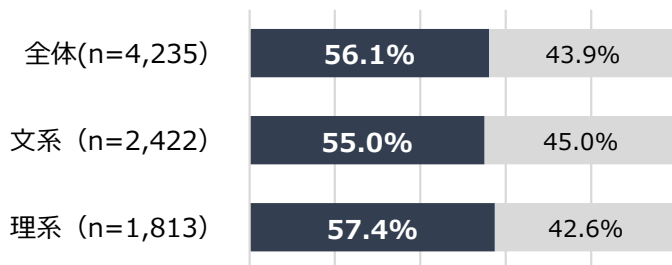


✓ フィードバックは文理問わず半数以上が経験

✓ 文系は「グループ」で受ける割合がやや高いが「個人」と同程度、理系は「個人」で受ける割合が高い

フィードバックはあったか

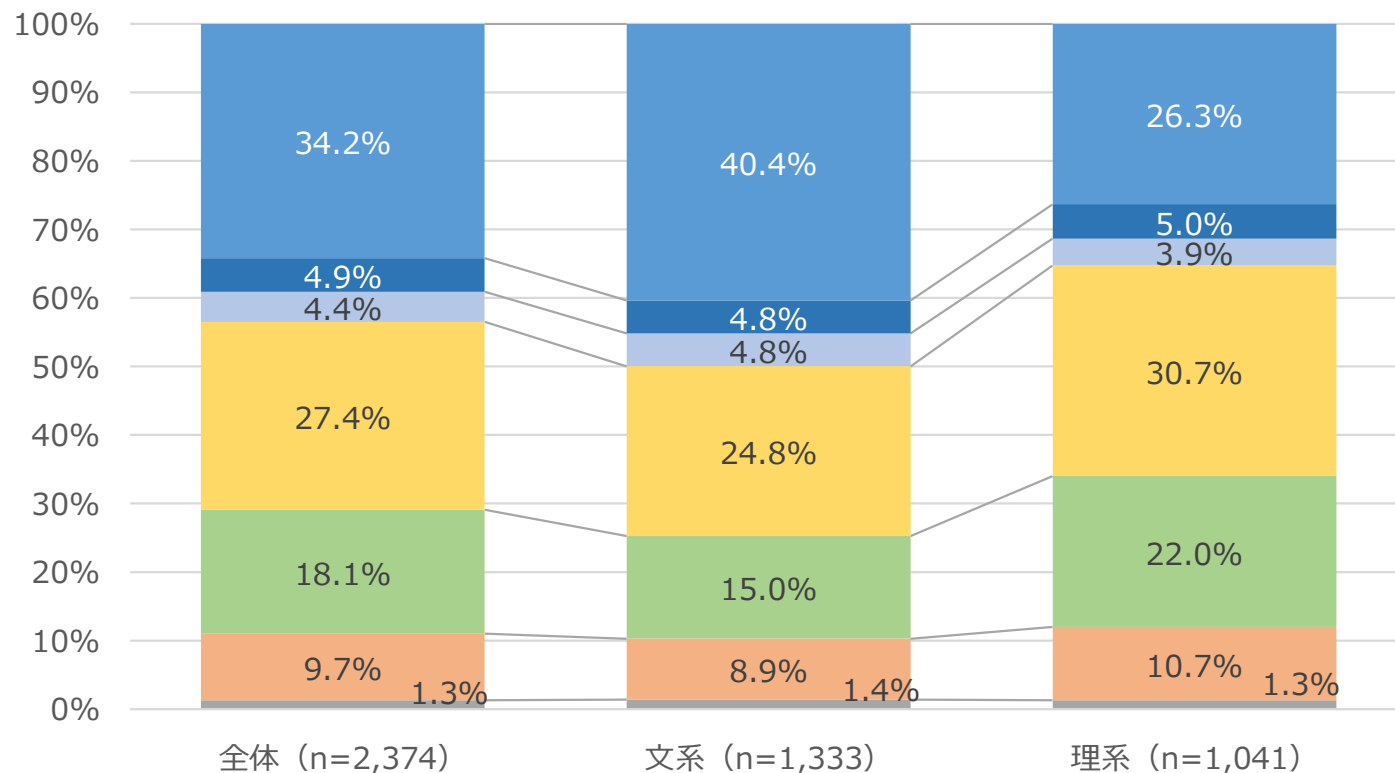
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ はい ■ いいえ

【フィードバックを受けたことがある方のみ】どのような形式のフィードバックだったか

- グループに対する口頭でのフィードバック
- グループに対する書面（評価シートなど）でのフィードバック
- グループに対する口頭と書面の両方
- 個人に対する口頭でのフィードバック
- 個人に対する書面（評価シート等）でのフィードバック
- 個人に対する口頭と書面の両方
- その他

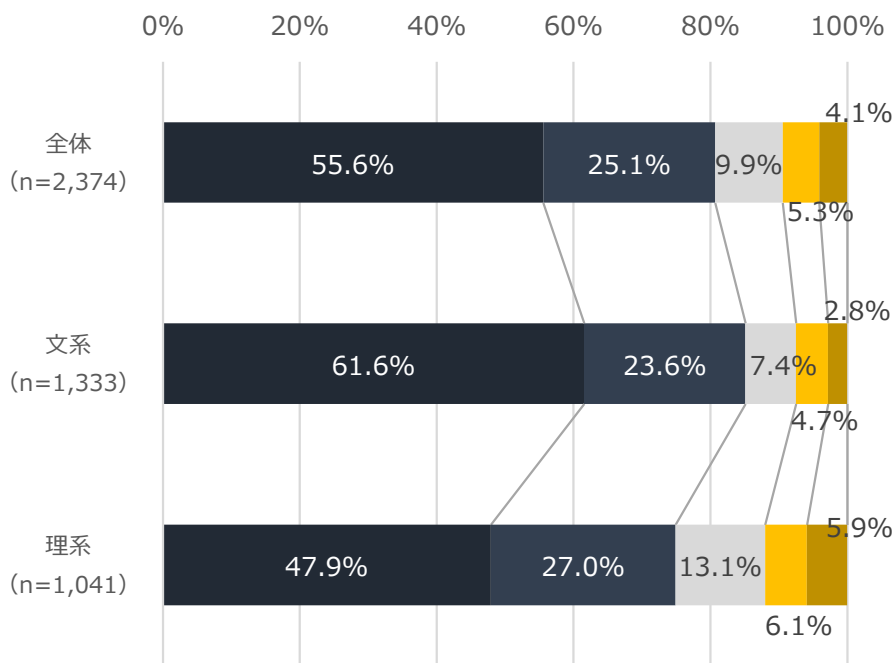


# インターンシップでのフィードバックについて②

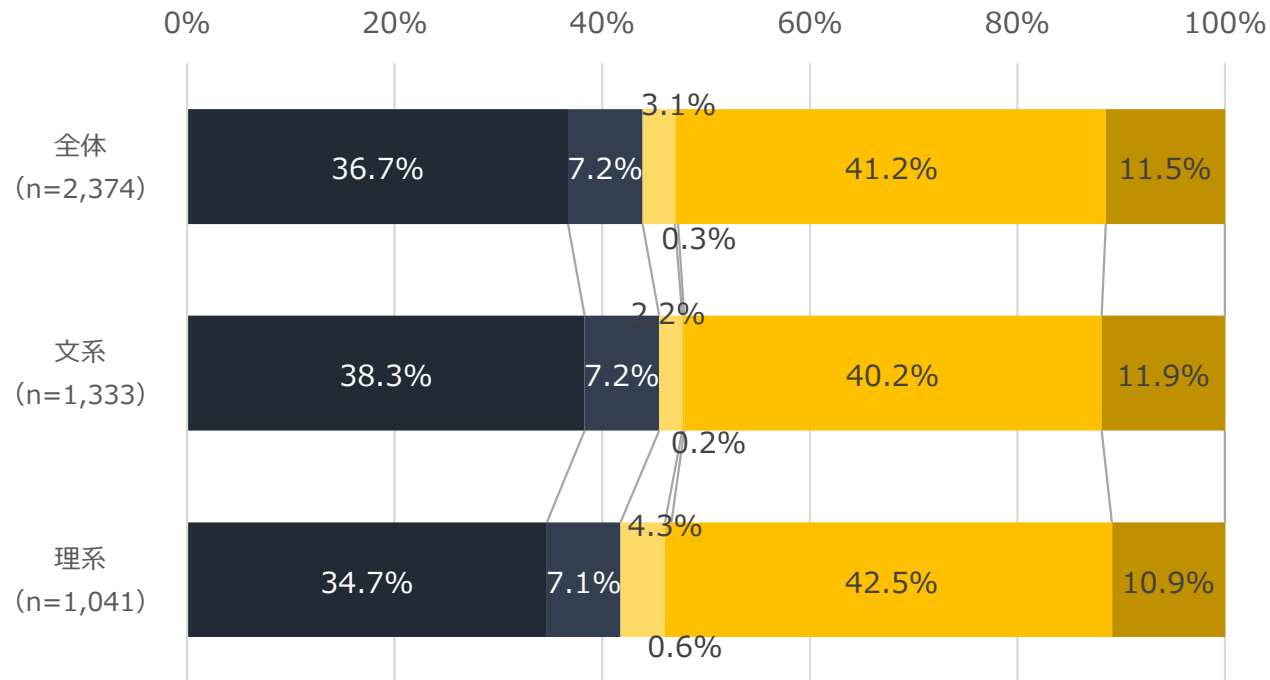


- ✓ 1人あたり（個人ごと）の時間は「10分間」が最も多い
- ✓ 頻度については「概ね毎回」もしくは「最後に1回」に2分される

あなた個人に対するフィードバックは、  
合計どれくらいの時間行われたか



あなた個人に対するフィードバックは、どれくらいの頻度で行われたか

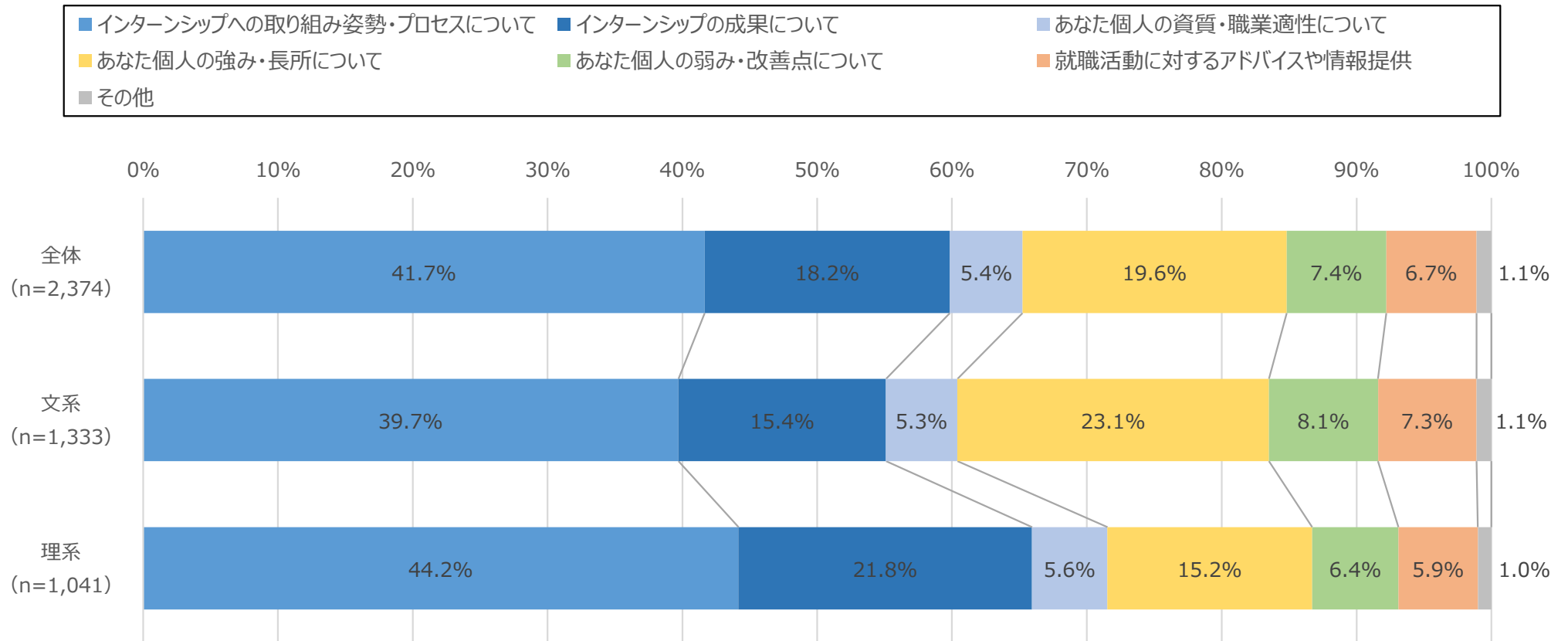


# インターンシップでのフィードバックについて③



- ✓ フィードバックの内容として一番多いのは「インターンシップへの取り組み姿勢・プロセスについて」
- ✓ 文系は個人抛り（「個人の強み・長所」+「個人の弱み・改善点」）の割合が理系よりも高い
- ✓ 理系はインターンシップそのものに抛る項目（「取り組み姿勢・プロセス」+「成果」）の割合が高い

フィードバックの内容は主にどのようなものだったか（最も時間をかけた内容）

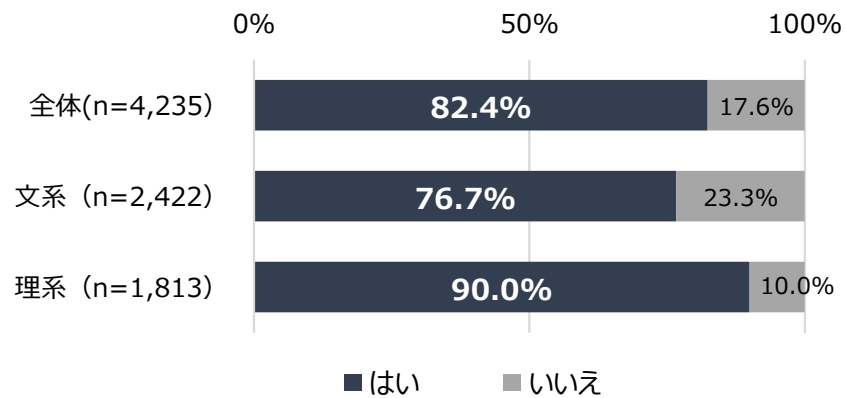


# インターンシップでの人的ネットワークについて①

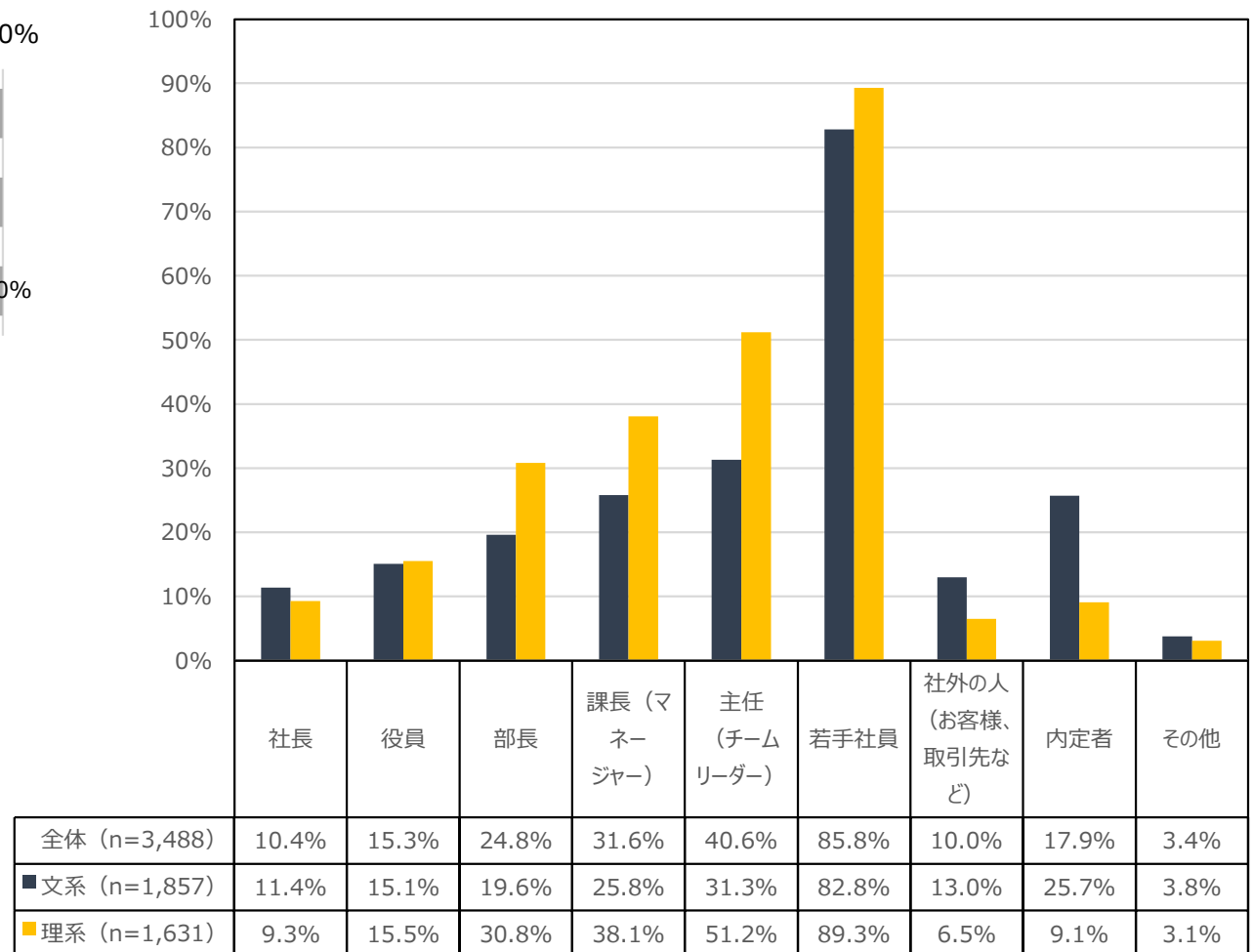


- ✓ 文理共に多いのは「若手社員」で全体で8割超え
- ✓ 文系では「内定者」との関わりが理系よりも16.6pt多い
- ✓ 理系では「主任」「課長」「部長」との関わりが文系よりも1割以上多い

人事担当者以外の人と関わる機会があったか



どのような人たち関わったか（該当する項目全て選択）

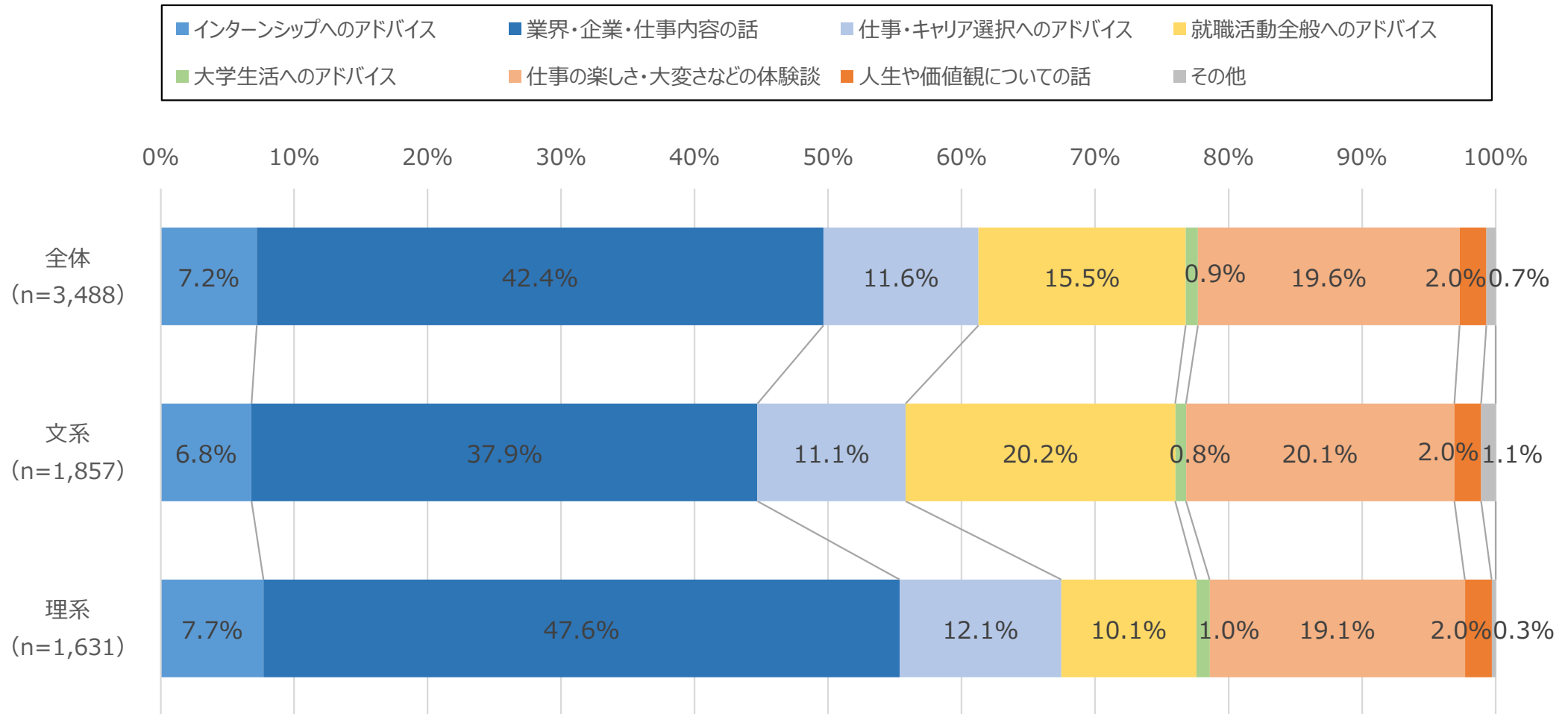


# インターンシップでの人的ネットワークについて②



- ✓ 文理共に多いのは「業界・企業・仕事内容の話」、特に理系では5割近く
- ✓ 文系では「就職活動全般へのアドバイス」の割合が理系よりも10pt以上高い

多様な人材との関わりあいで、どのような話やサポートをもらったか





1-1. インターンシッププログラムについて

**1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感**

1-3. インターンシップ効果尺度

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

1-4. インターンシップを経験したその後の変化

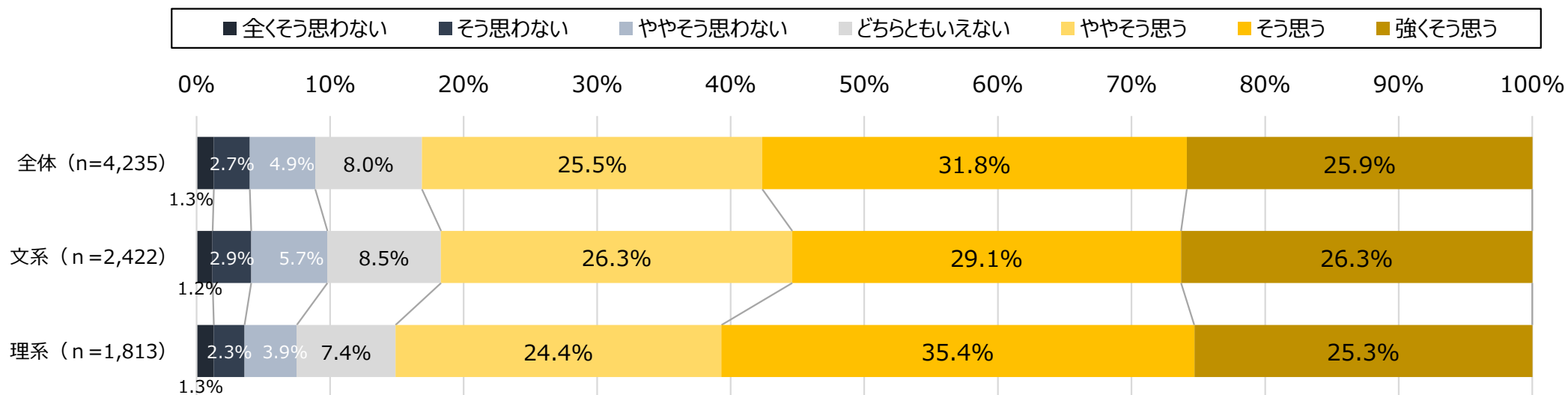
1-5. 満足度について

# 事前・事後学習について①

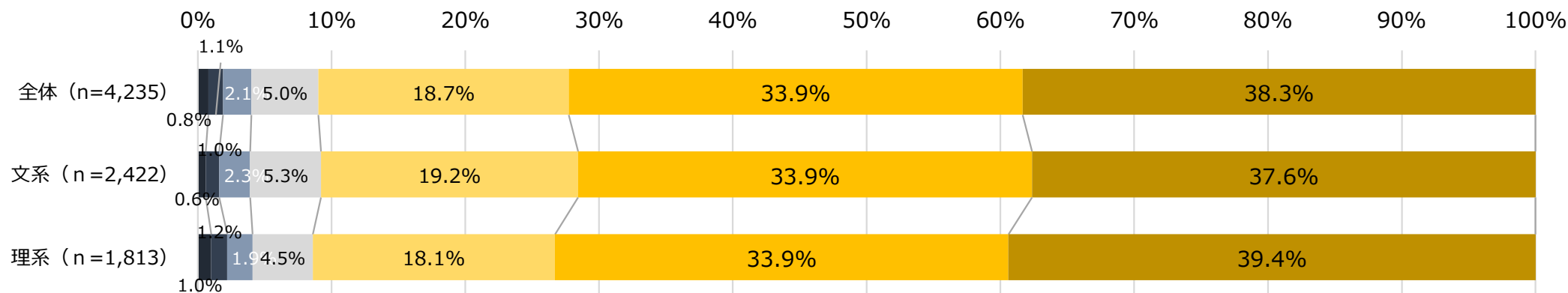


- ✓ 参加前「参加目的の明確化や目標設定」ができたと考えている割合は8割以上
- ✓ 参加中「適切なサポートやフォロー」ができたと考えている割合は9割以上

【インターンシップ開始前】 参加目的の明確化や目標設定をすることができた



【インターンシップ期間中】 適切なサポートやフォローを受けることができた

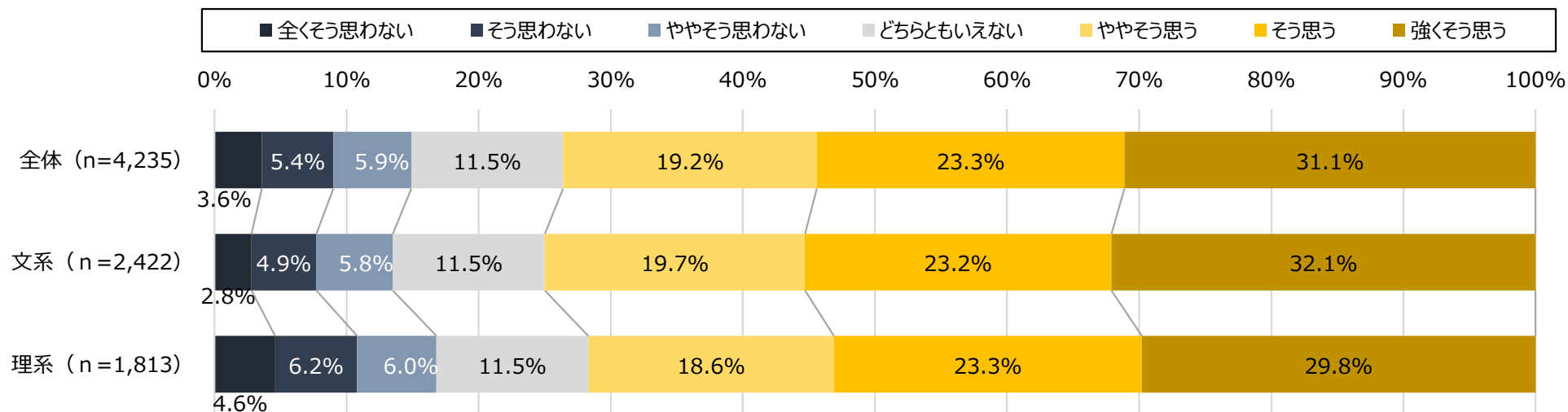


# 事前・事後学習について②



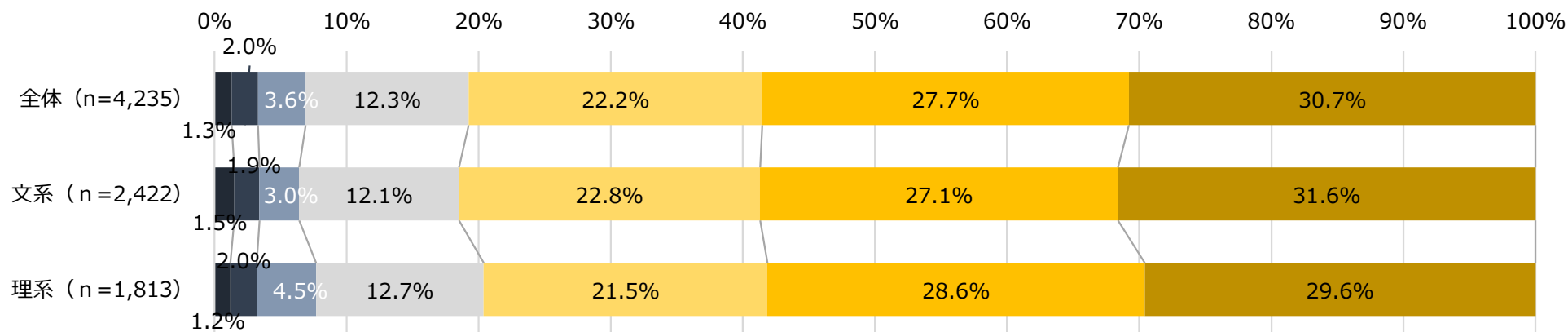
- ✓ 参加後「活動の評価とフィードバックを受けること」ができたと考えている割合は7割以上
- ✓ 事前・事後とした学習へ満足しているのは8割以上

【インターンシップ終了後】 インターンシップ活動の評価とフィードバックを受けることができた



## 事前・事後学習満足度

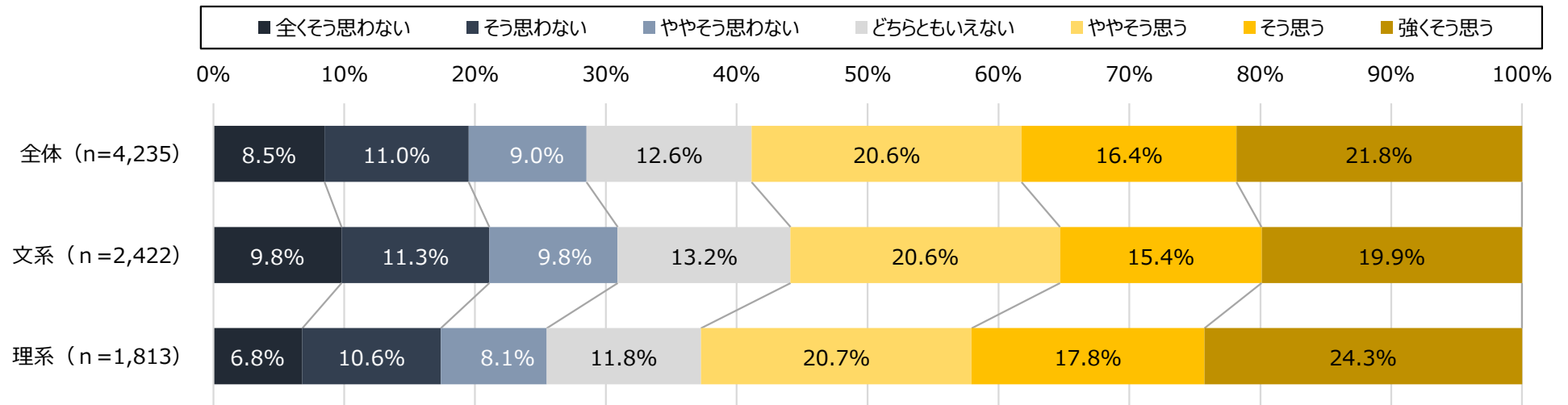
インターンシップ参加前後に行われた事前の目標設定や事後のフィードバックに満足している



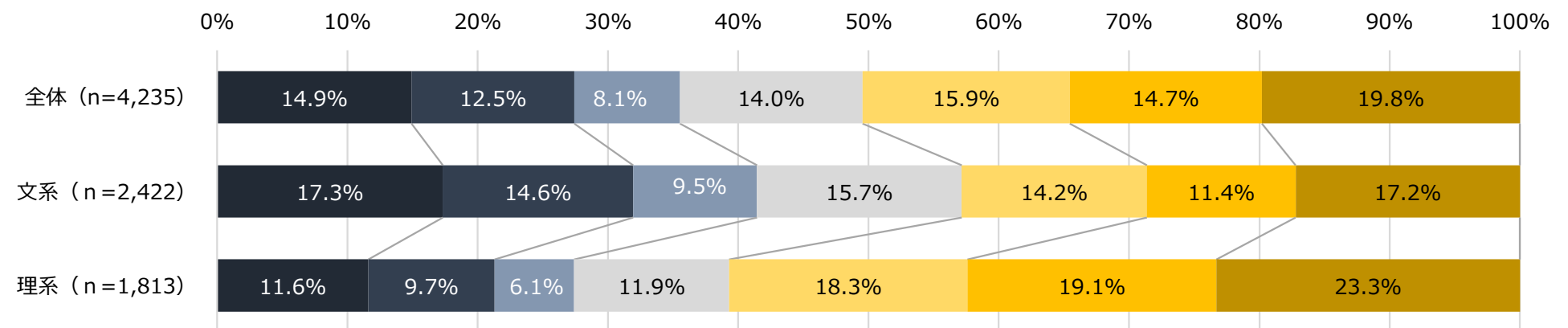
✓ 「実際の仕事を直接体験できた」思っている割合は半数程度、やや理系のほうが高い

✓ 「（社員の同行・観察で）実際の仕事を疑似体験できた」と思っている割合は理系で6割程度

実際の仕事を直接体験することができた



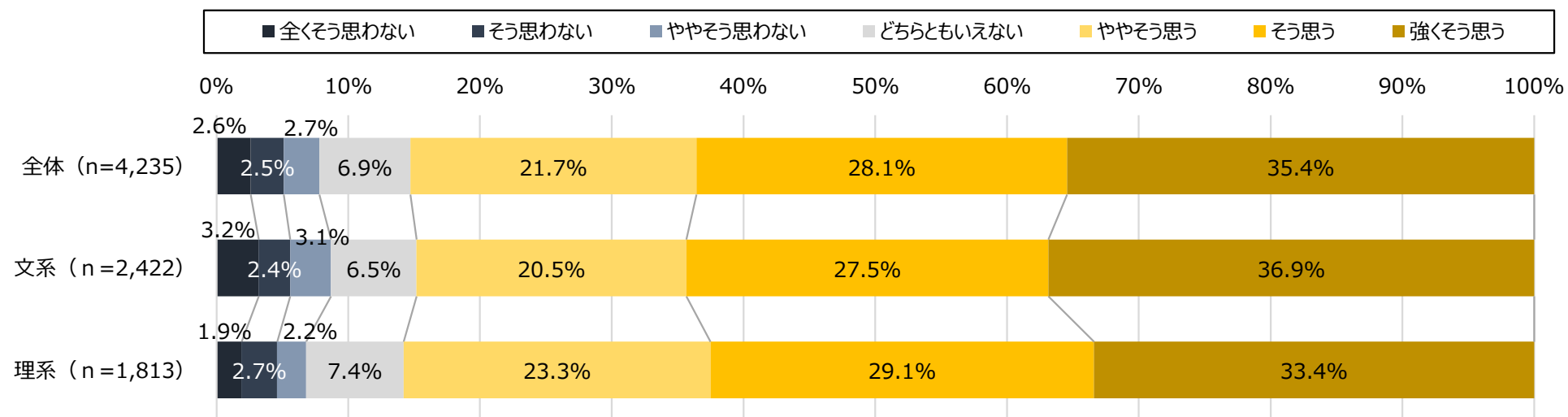
社員に同行・観察することで、実際の仕事を疑似体験することができた



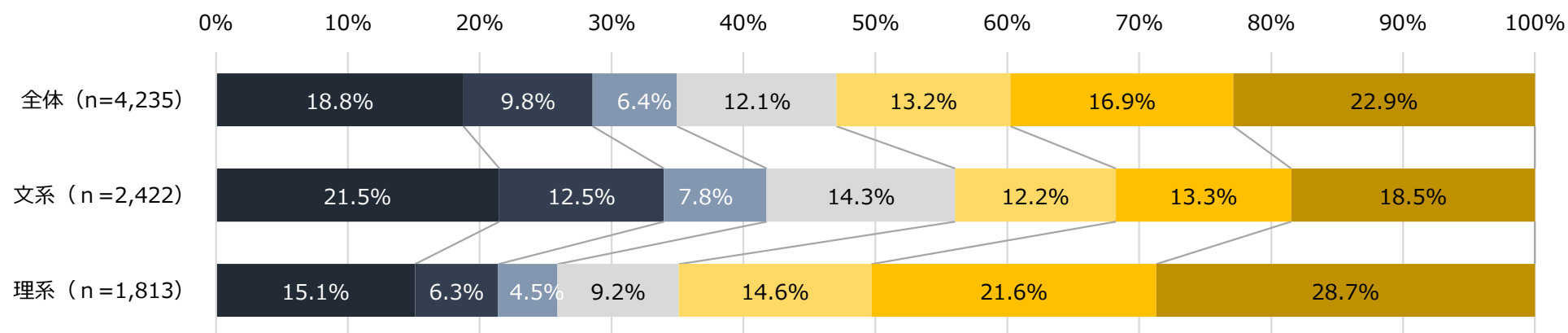
✓「ワークを行い、仕事内容を理解することができた」割合は文理ともに8割を超えた

✓「職場を見学し、職場と仕事内容を想像することができた」割合は理系のほうが文系よりも高い

実際の業務・仕事内容を想定したワークを行い、仕事内容を理解することができた



実際の職場・工場・研究所などを見学し、職場と仕事内容を想像することができた



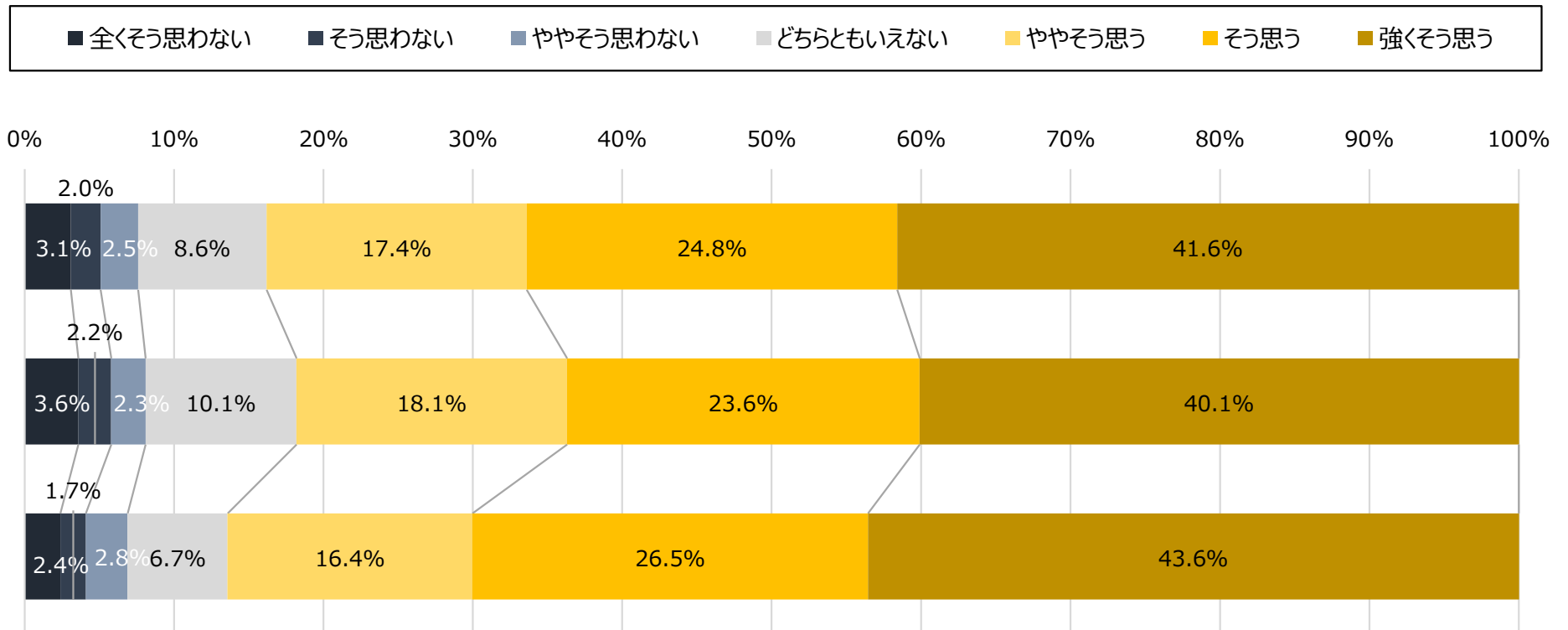
# 就業体験について③



- ✓ 就業体験に満足している割合はやや理系の方が高いものの、文理ともに8割を超えている
- ✓ 一方で参加学生のニーズを強く満たしているのは全体の40%程度であり、未だ改善の余地は残されている

就業体験  
満足度

## インターンシップで行われた就業体験に満足している



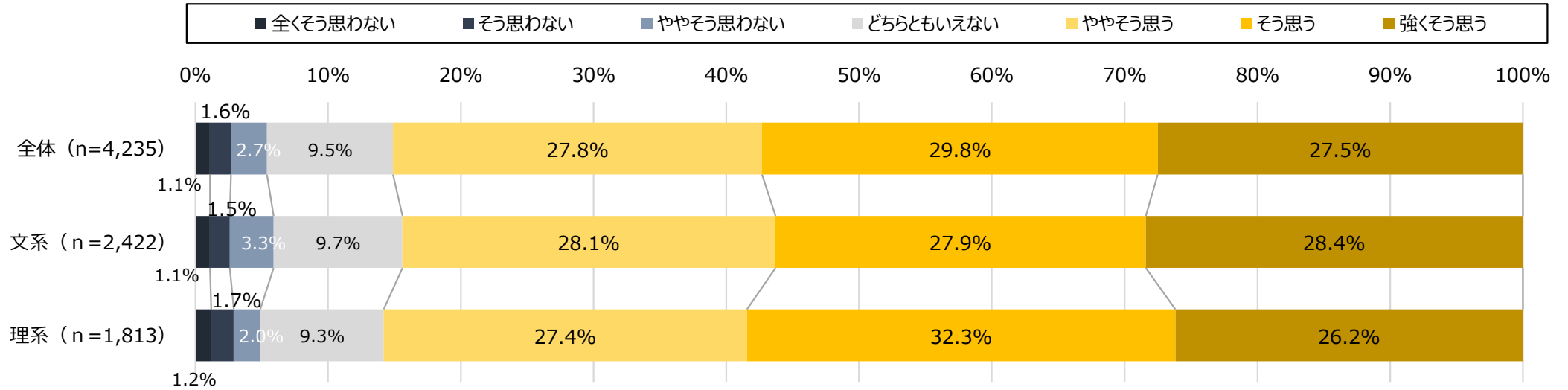
# 社会的・職業的自立について①



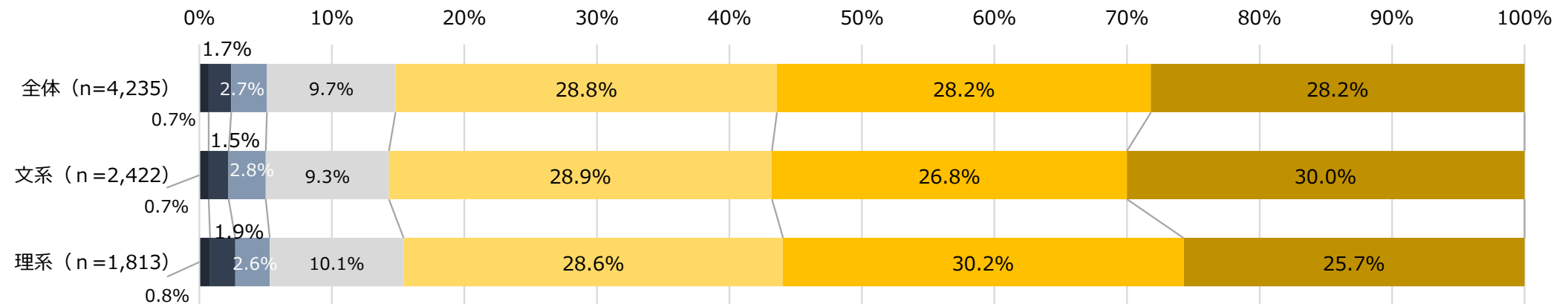
✓ 「職業適性が分かった」割合は文理ともに8割を超えた

✓ 「社会人に必要な基礎能力が向上した」割合は文理ともに8割を超えた

自分に合う仕事・合わない仕事など、職業適性が分かった



社会人に必要な基礎能力が向上した



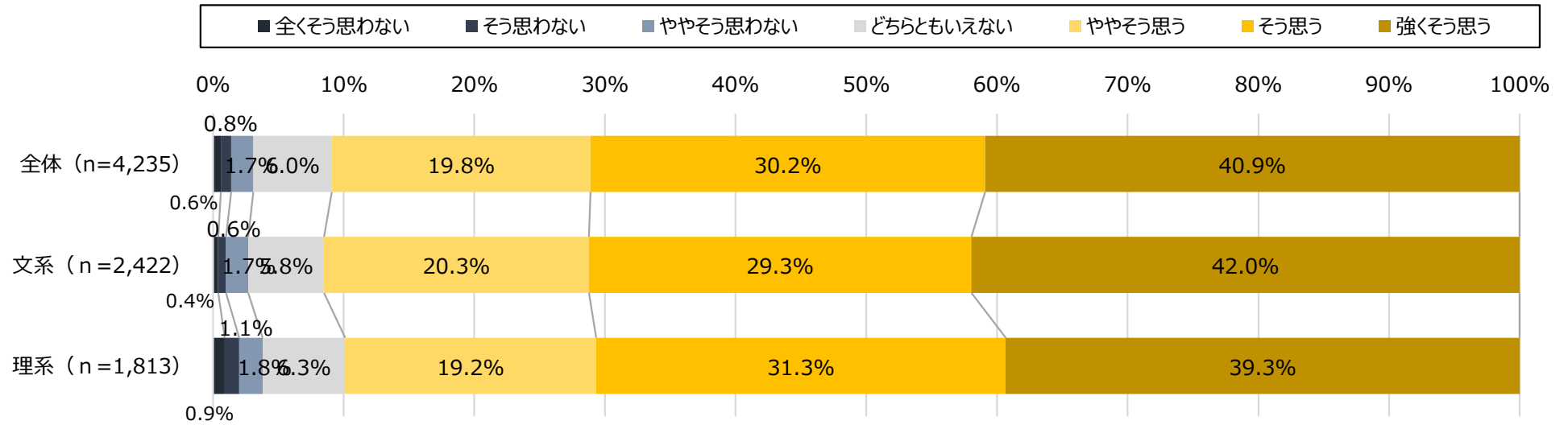
# 社会的・職業的自立について②



✓ 「仕事・働くことに対する意欲が高まった」割合は文系で9割を超え、理系でも89.9%と高い

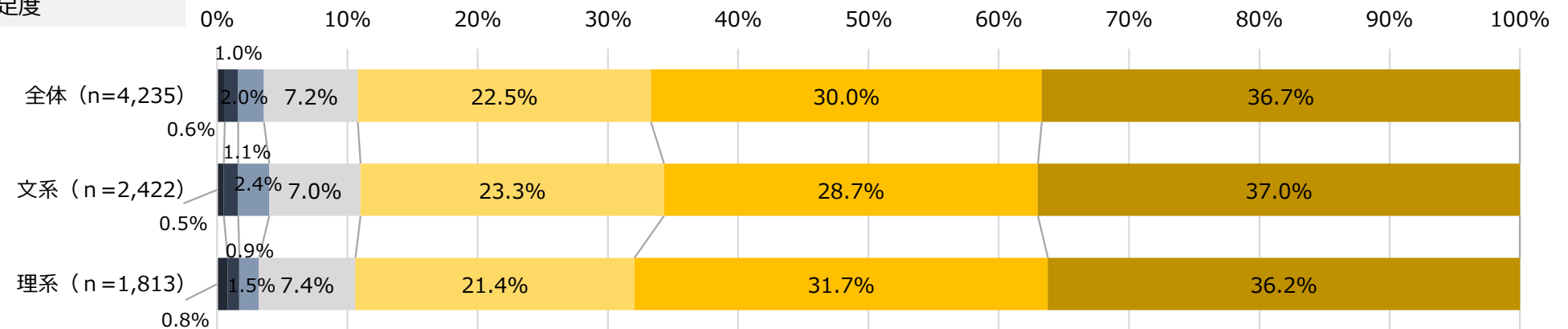
✓ 「社会的・職業的自立」に対する効果に満足している割合は文理ともに9割近くとなっていた

「仕事・働くこと」に対する意欲が高まった



社会的・職業的自立満足度

インターンシップ経験は自分の社会的・職業的自立に役立っており、その効果に満足している

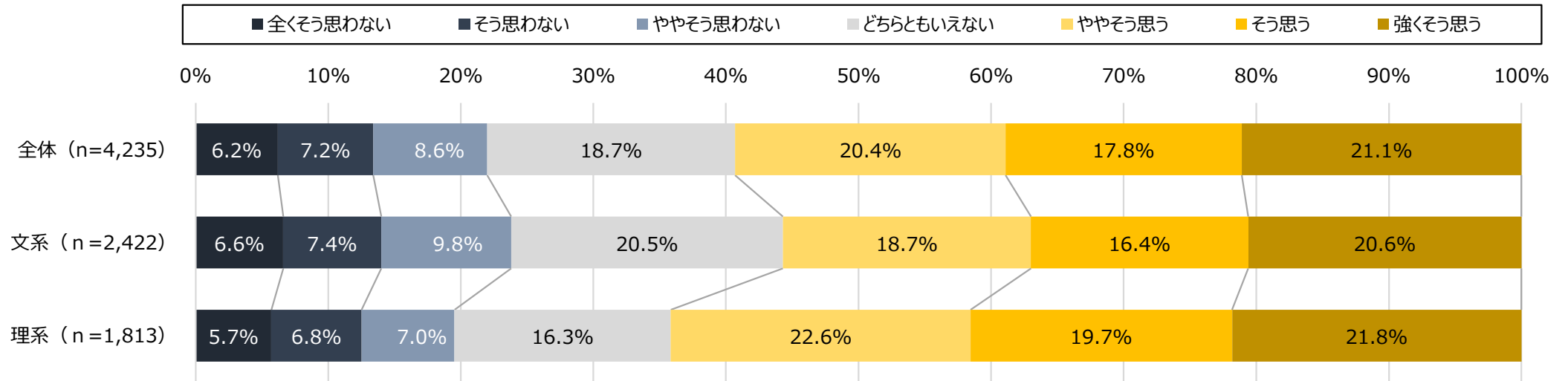




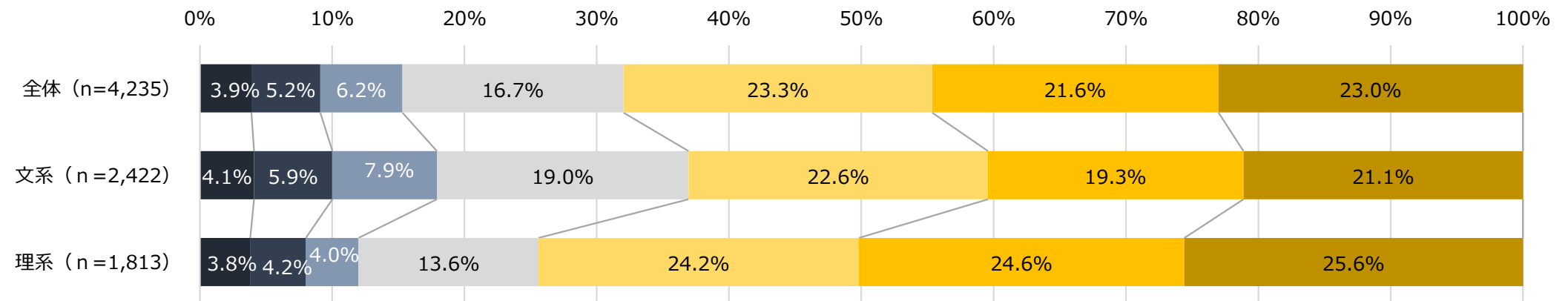
✓ 「大学等で学習した内容がより深まった」割合は理系のほうが高い

✓ 「大学等での学習意欲が高まった」割合は理系のほうが高いが文系でも6割を超えている

### 大学等で学習していた内容がより深まった



### 大学等での学習意欲が高まった



1-1. インターンシッププログラムについて

1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

**1-3. インターンシップ効果尺度**

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

1-4. インターンシップを経験したその後の変化

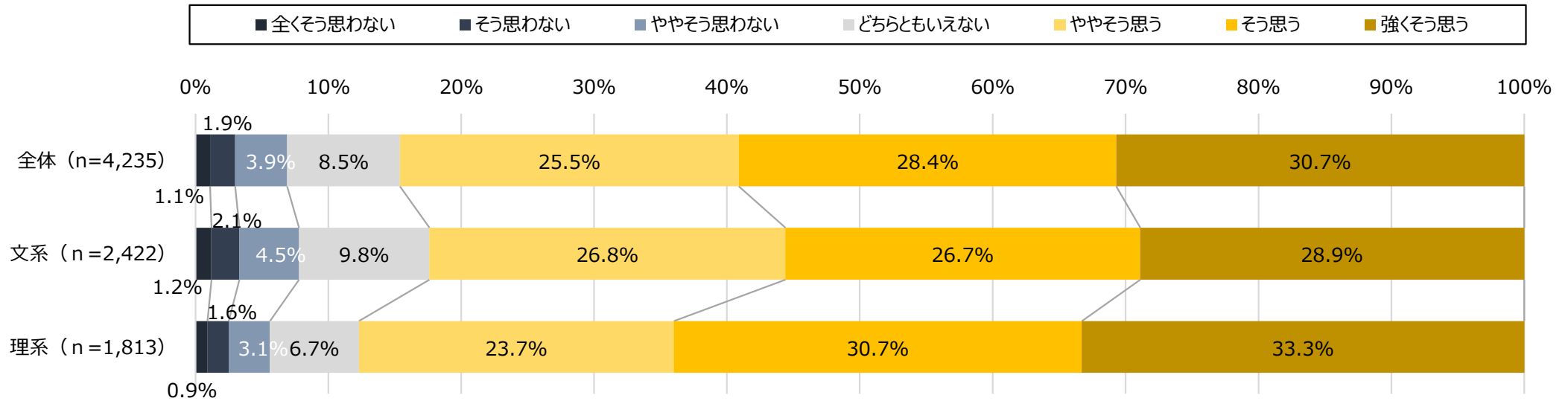
1-5. 満足度について

# 【インターンシップ効果尺度】キャリアの焦点化

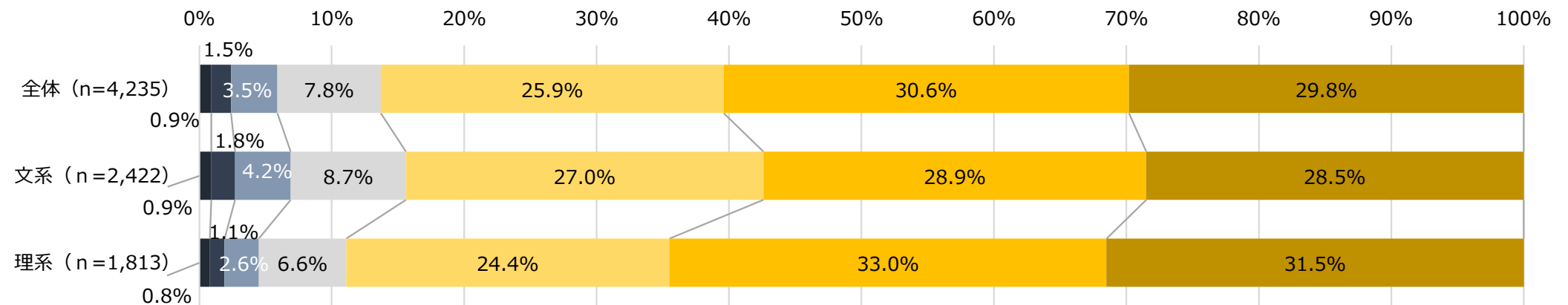


✓ 「キャリアの焦点化」を示す興味のある業界・企業・仕事内容の絞り込みやイメージの明確化について、できていると思う割合は全体で8割を超えており、特に理系では9割近くになっている

興味のある業界・企業・仕事内容の絞り込みができている



働きたい業界・企業・仕事内容のイメージが明確になっている

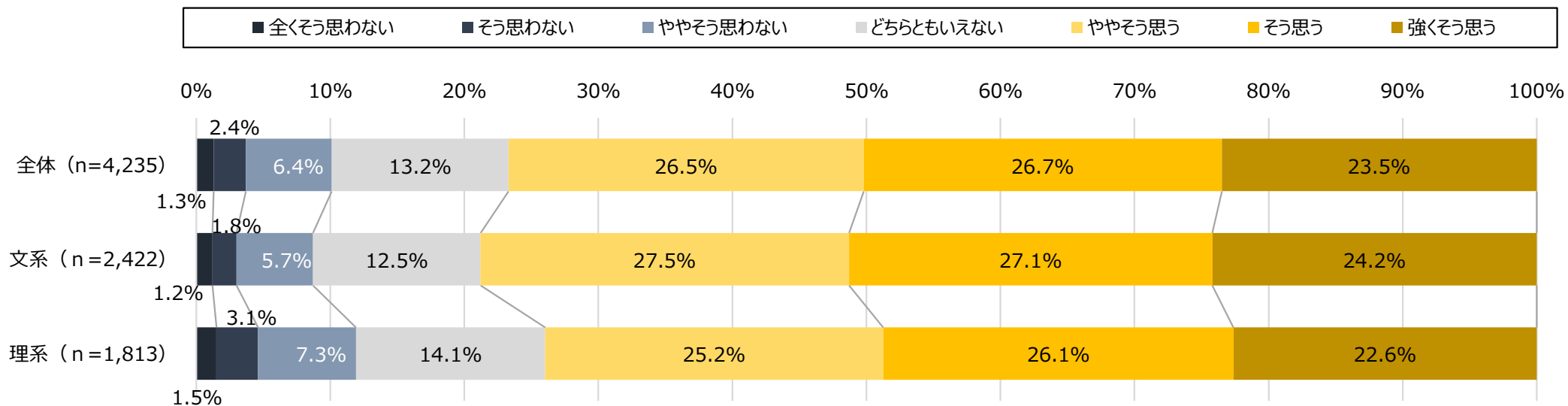


# 【インターンシップ効果尺度】キャリアの展望化

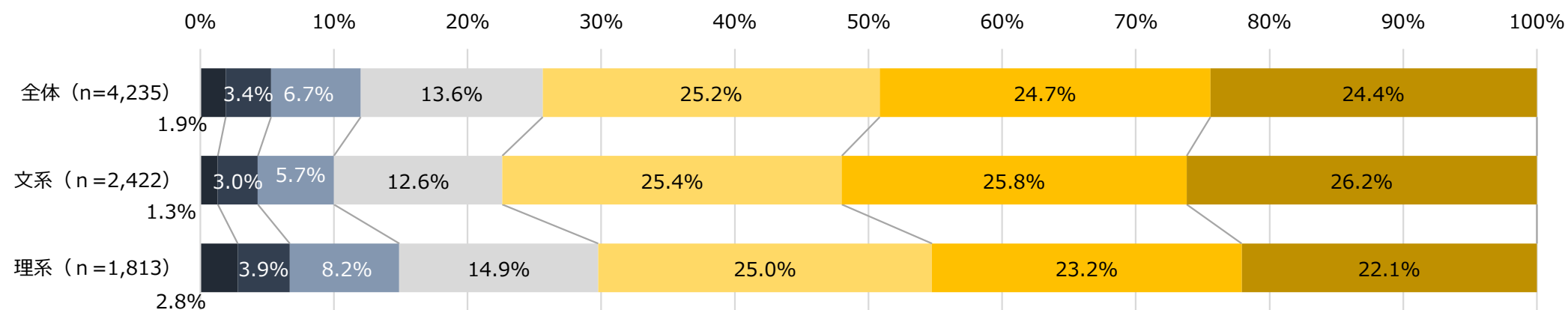


✓ 「キャリアの展望化」を示す興味のある業界・企業・仕事内容の幅が広がったり、  
これまで知らなかった業界・企業・仕事内容への興味を持ったと思う割合は文系のほうが理系よりも高い

興味のある業界・企業・仕事内容の幅が広がってきている



これまで知らなかった業界・企業・仕事内容にも興味が出てきた



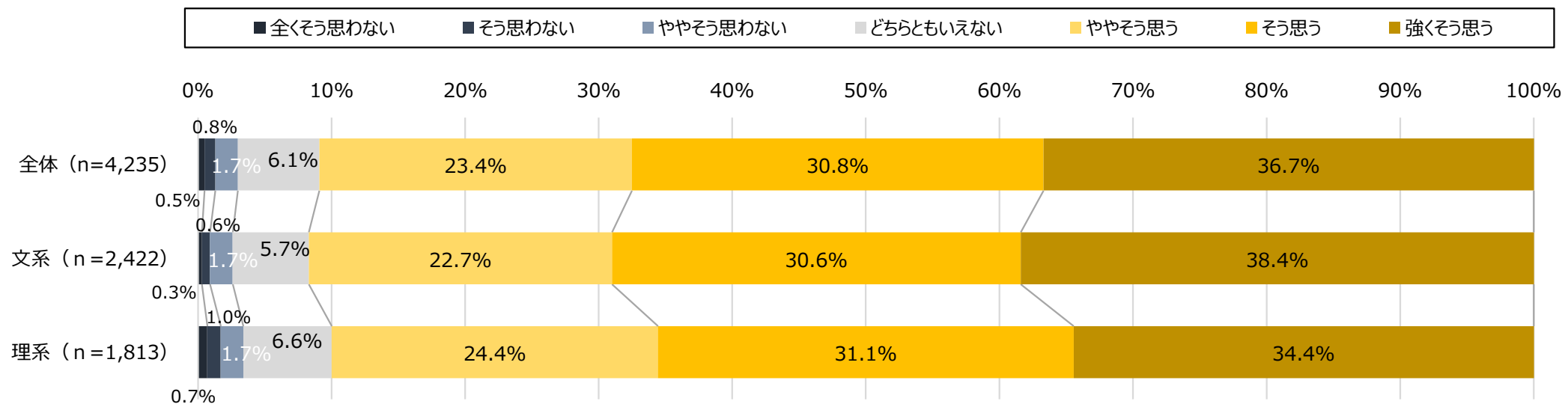
# 【インターンシップ効果尺度】人的ネットワークの認知



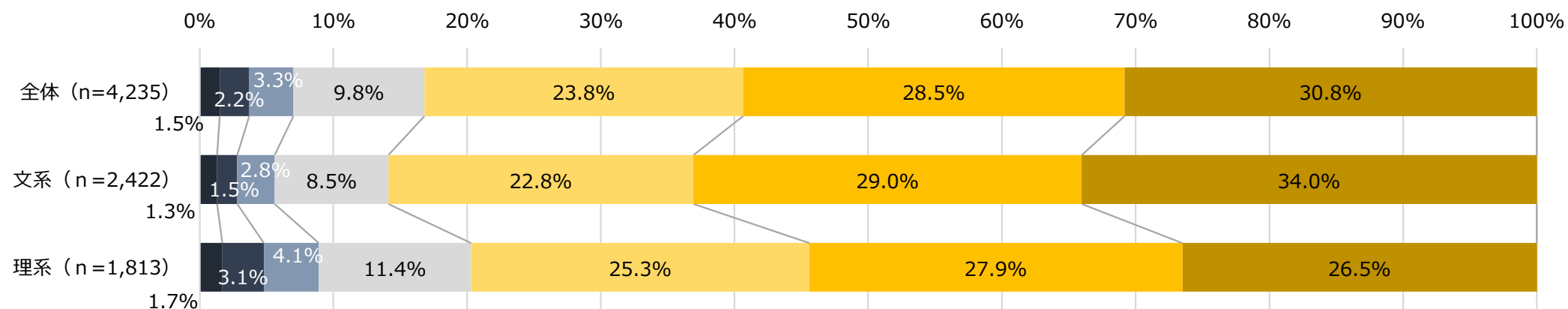
✓ 「周りの社会人にアドバイスを求めていきたい」と思う割合は文理共に高いいずれも9割程度

✓ 「大学のキャリアセンターなど」を活用していきたいと思う割合は文系のほうが高く85.8%

自分に合った企業・仕事を見つけるために、周りの社会人にアドバイスを求めていきたい



自分に合った企業・仕事を見つけるために大学のキャリアセンターなど周りの施設・機会を活用していきたい

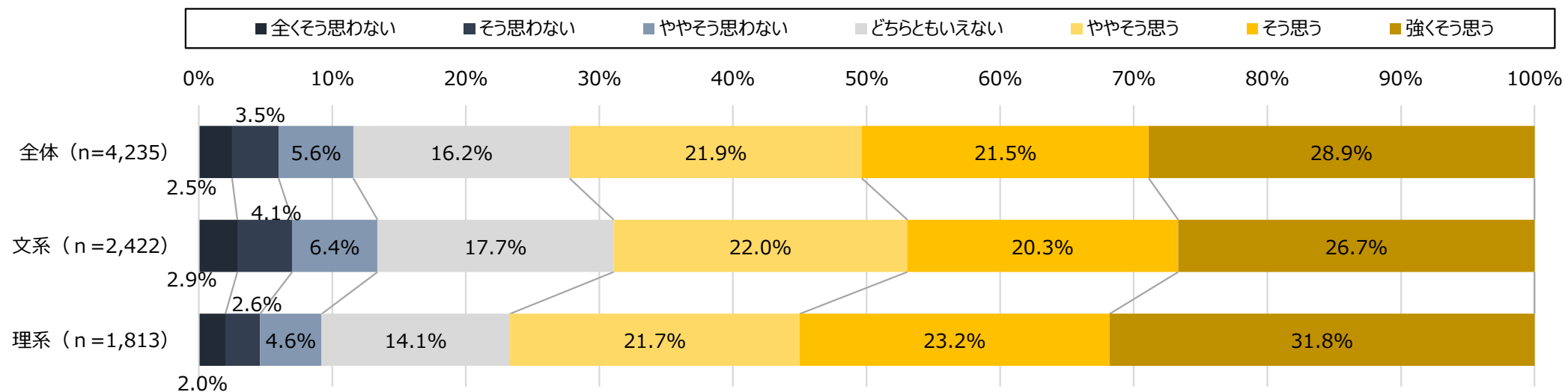


# 【インターンシップ効果尺度】就労意欲

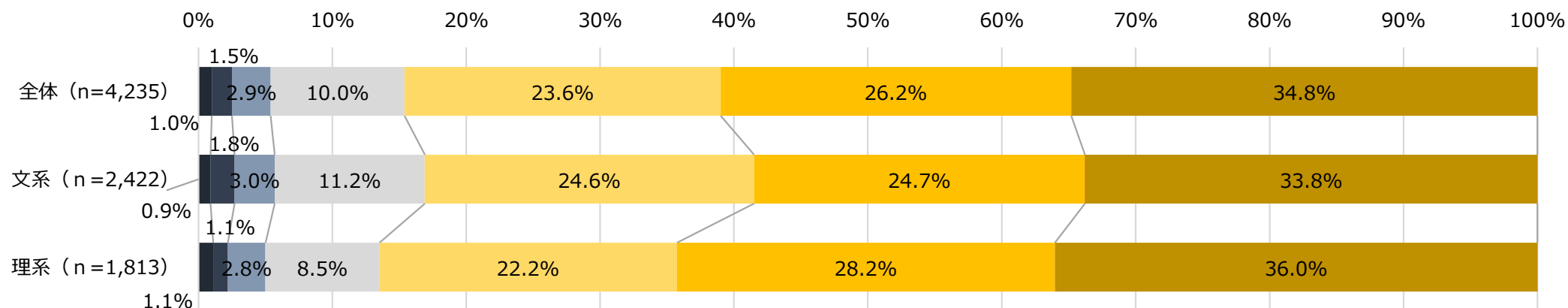


- ✓ 「仕事・働くことに対する意欲が高まっている」と回答した割合は文理ともに高く8割を超えている
- ✓ 仕事の意欲に呼応するように、就業を早く望む学生も同割合みられた

## 社会人として早く働き始めたい



## 「仕事・働くこと」に対する意欲が高まっている

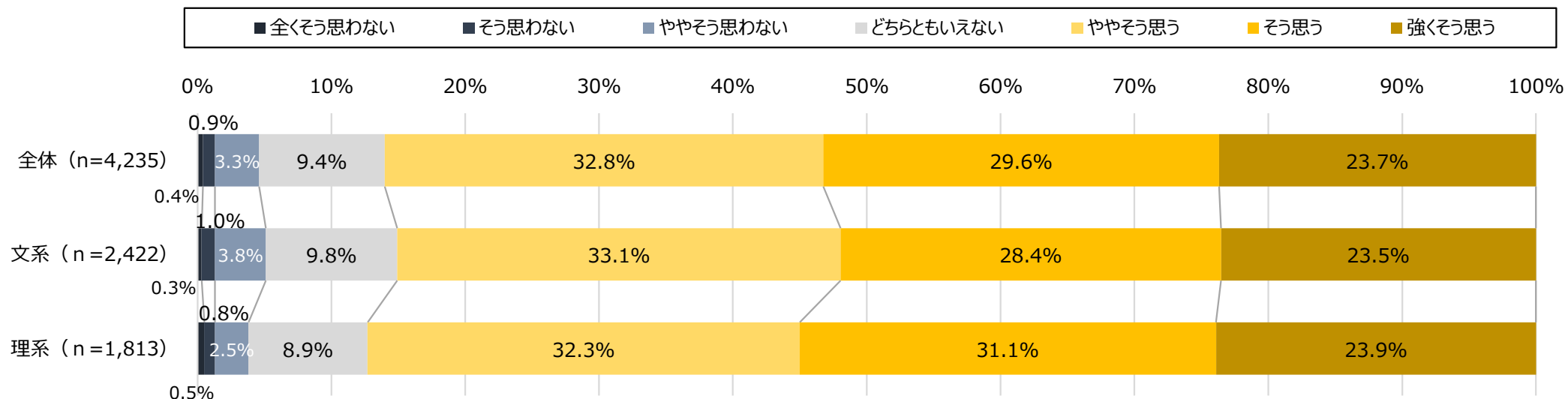


# 【インターンシップ効果尺度】自己理解

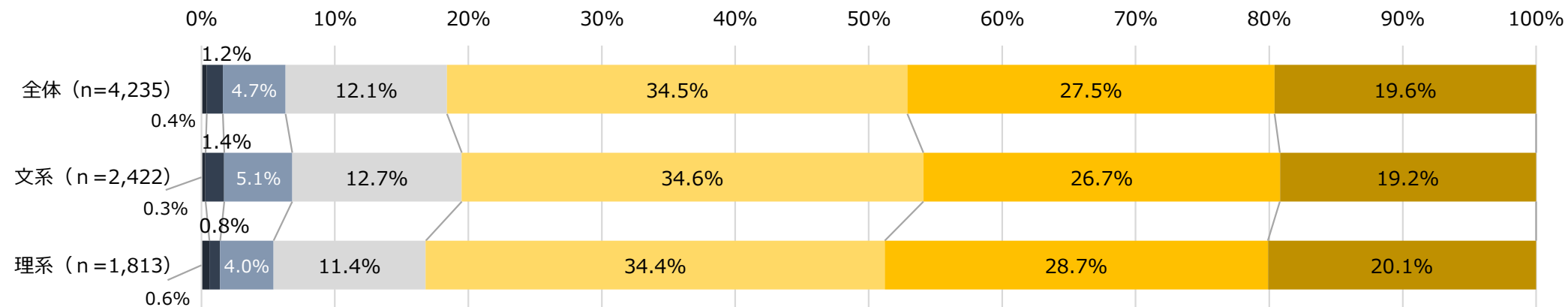


✓ 「自分の良い点・改善点の理解」「自分の能力・実力を客観的に把握」していると回答した割合は文理ともに8割を超えている

### 自分の良い点・改善点を理解している



### 自分の能力・実力を客観的に把握している



1-1. インターンシッププログラムについて

1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

1-3. インターンシップ効果尺度

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

**1-4. インターンシップを経験したその後の変化**

1-5. 満足度について



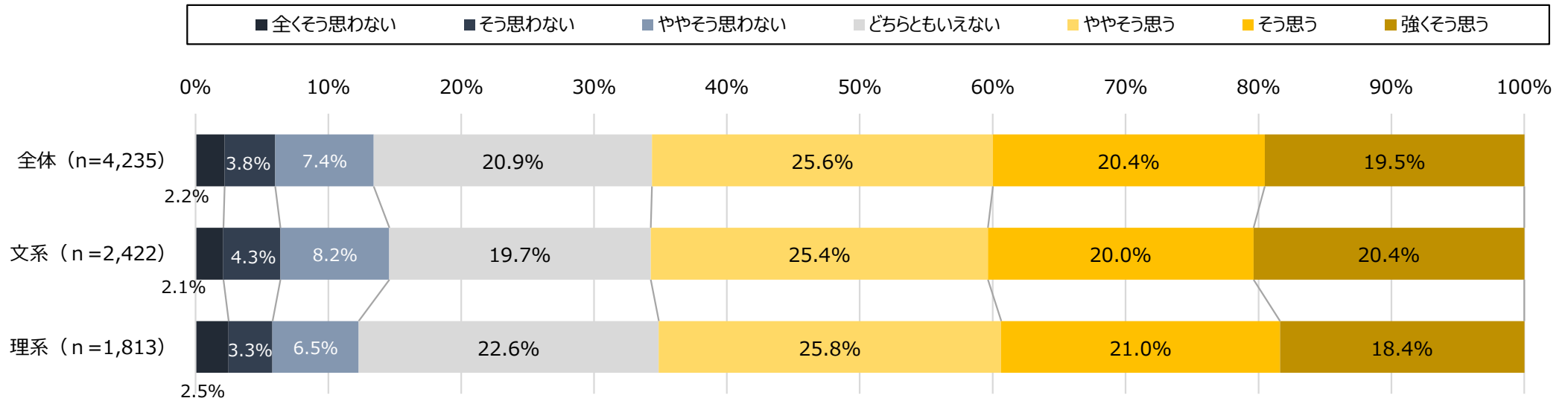
# 学習行動の変化



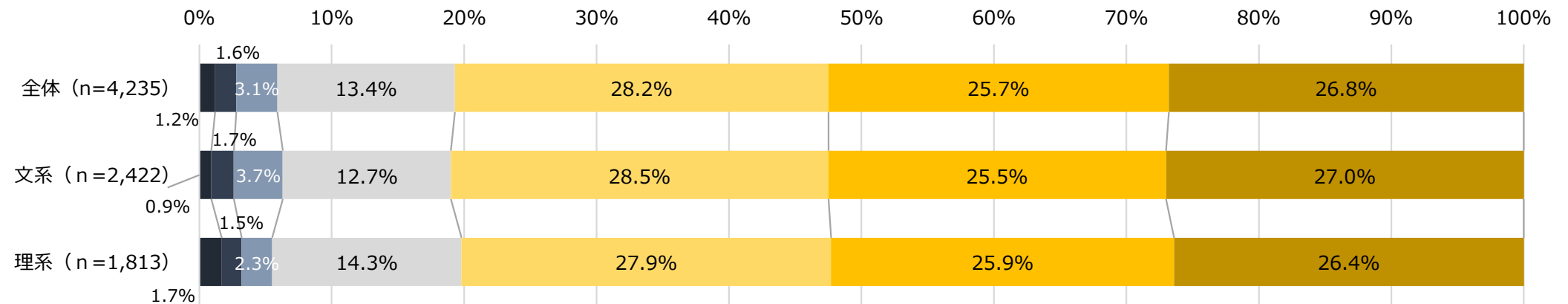
✓ 「学習時間が増えた」と回答した割合は全体で6割を超えている

✓ 「主体的に学ぶようになった」と回答した割合は8割を超えている

### インターンシップ経験後、学習時間が増えた

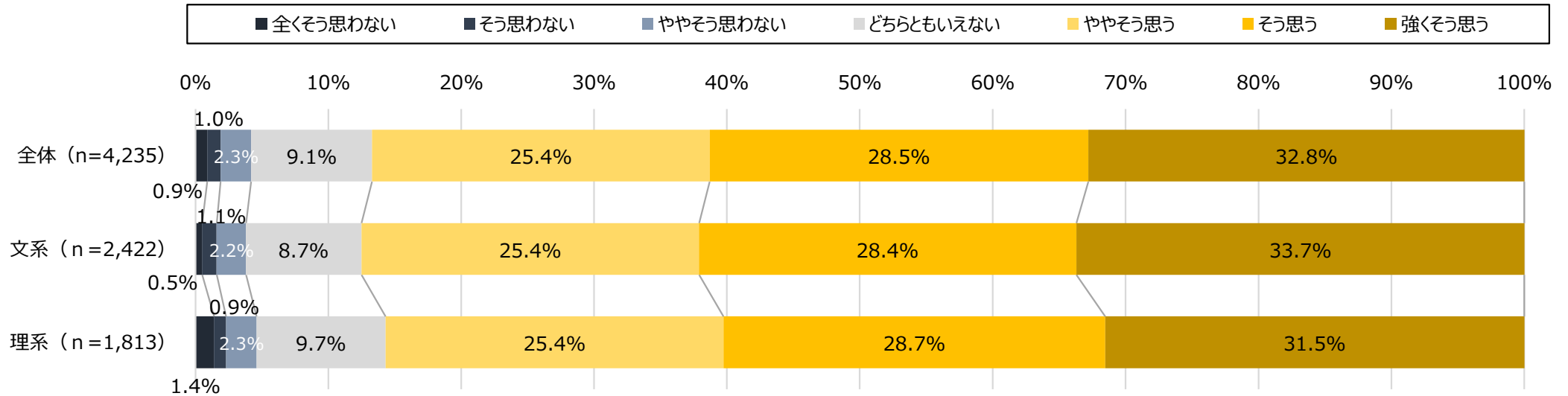


### インターンシップ経験後、主体的に学ぶようになった

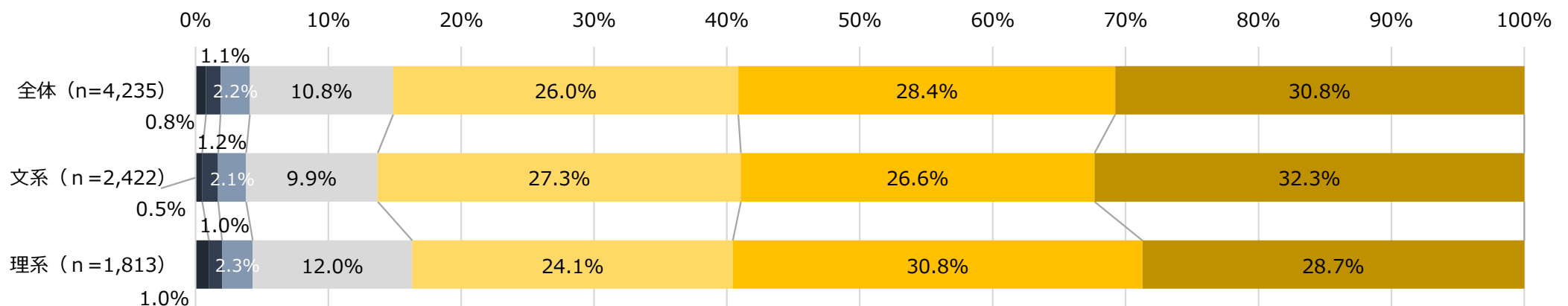


✓ 「前に踏み出す力」「考え抜く力」が向上したと回答した割合は文理ともに8割を超えており、やや文系のほうが理系よりも高い傾向にある

インターンシップ経験を通して、以前よりも「前に踏み出す力」が向上した

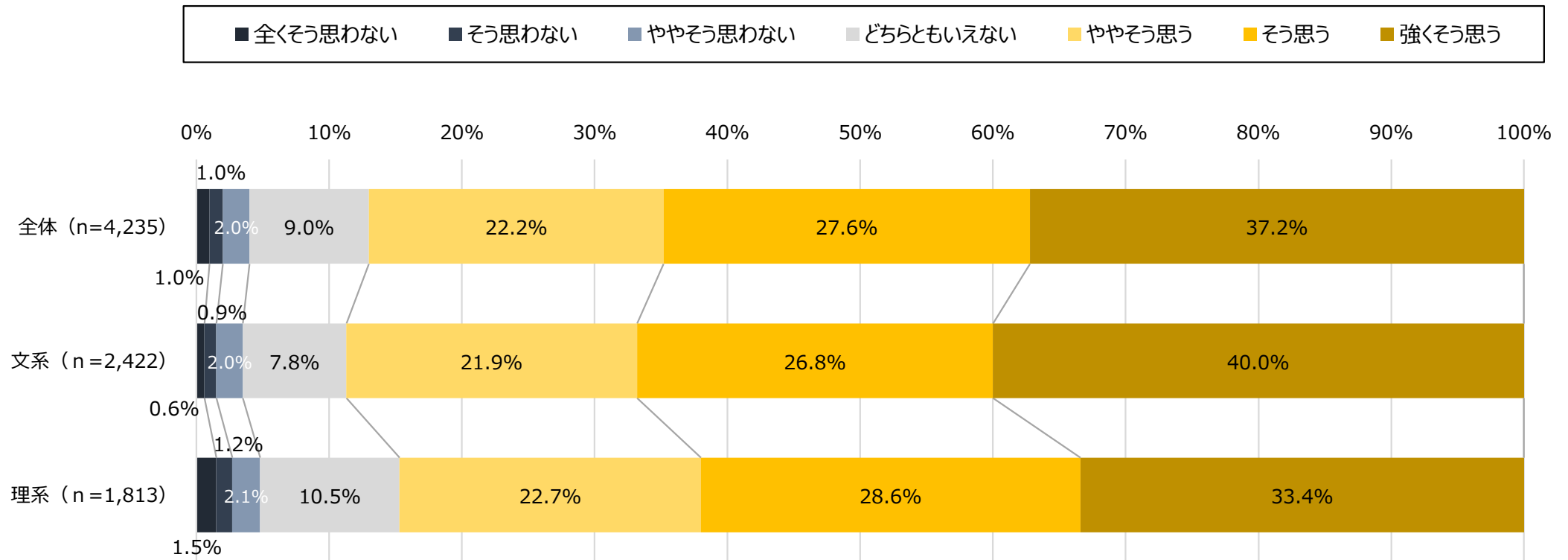


インターンシップ経験を通して、以前よりも「考え抜く力」が向上した



✓ 「チームで働く力」も前ページ同様に、向上したと回答した割合は文理ともに8割を超えている

インターンシップ経験を通して、以前よりも「チームで働く力」が向上した

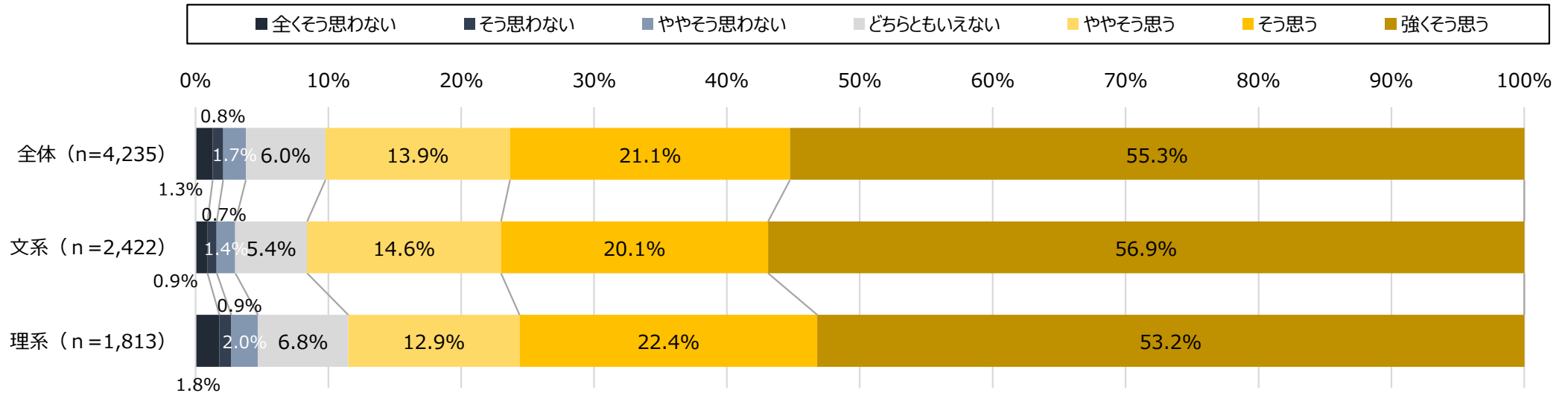


# インターンシップ参加後、企業との関係について

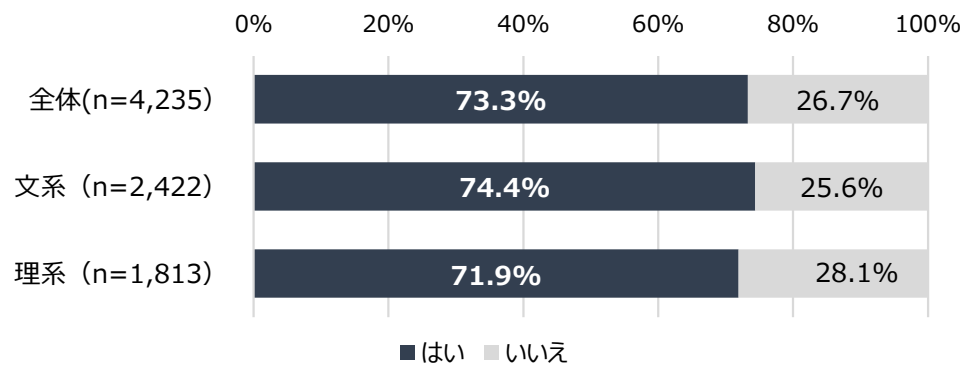


✓ インターンシップに参加することにより企業への志望度は向上し、採用選考への参加意欲につながっている様子が窺える

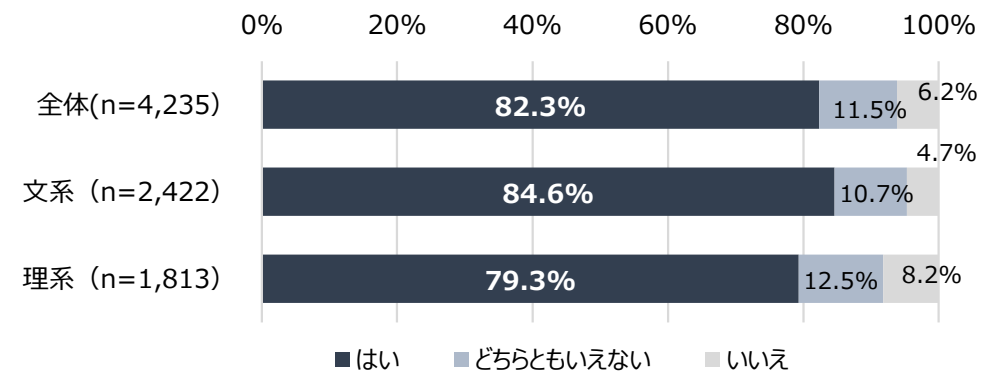
インターンシップ参加後、参加企業に対する志望度が上がった



インターンシップ終了後も、定期的な連絡やフォローがある

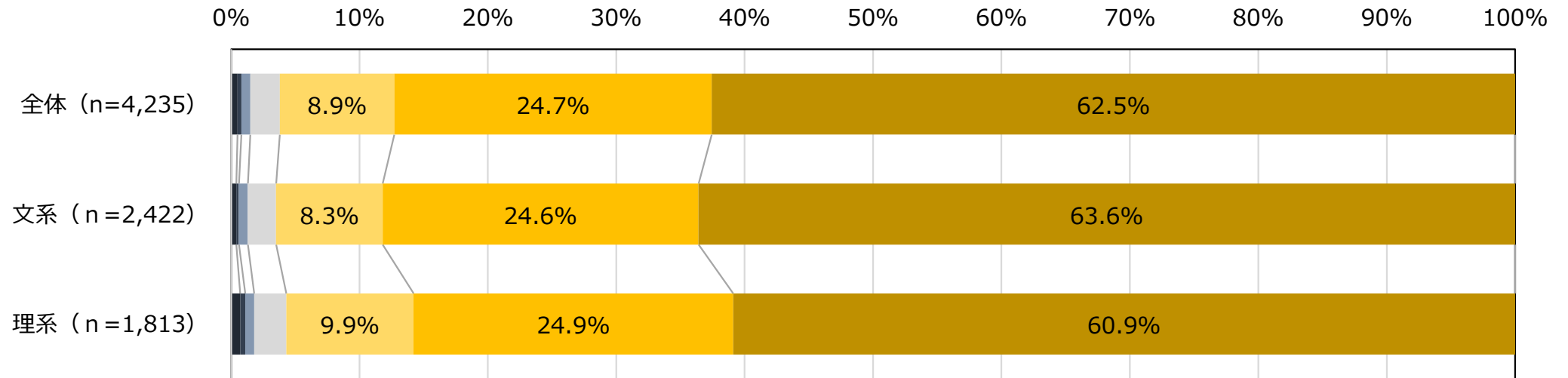


今後、この企業の採用選考に参加する予定だ



✓ 就職活動への意欲は他のどの項目と比較しても極めて高く、文理共に95%を超えており、「強く思う」だけに限定しても6割を超える結果となった

## 今後、就職活動に積極的に取り組んでいきたい



	理系 (n=1,813)	文系 (n=2,422)	全体 (n=4,235)
■ 全くそう思わない	0.7%	0.4%	0.5%
■ そう思わない	0.4%	0.2%	0.3%
■ ややそう思わない	0.7%	0.7%	0.7%
■ どちらともいえない	2.5%	2.2%	2.3%
■ ややそう思う	9.9%	8.3%	8.9%
■ そう思う	24.9%	24.6%	24.7%
■ 強くそう思う	60.9%	63.6%	62.5%

1-1. インターンシッププログラムについて

1-2. インターンシップを通して得られた効果・満足感

1-3. インターンシップ効果尺度

- ・キャリアの焦点化
- ・キャリアの展望化
- ・人的ネットワークの認知
- ・就労意欲
- ・自己理解

1-4. インターンシップを経験したその後の変化

**1-5. 満足度について**

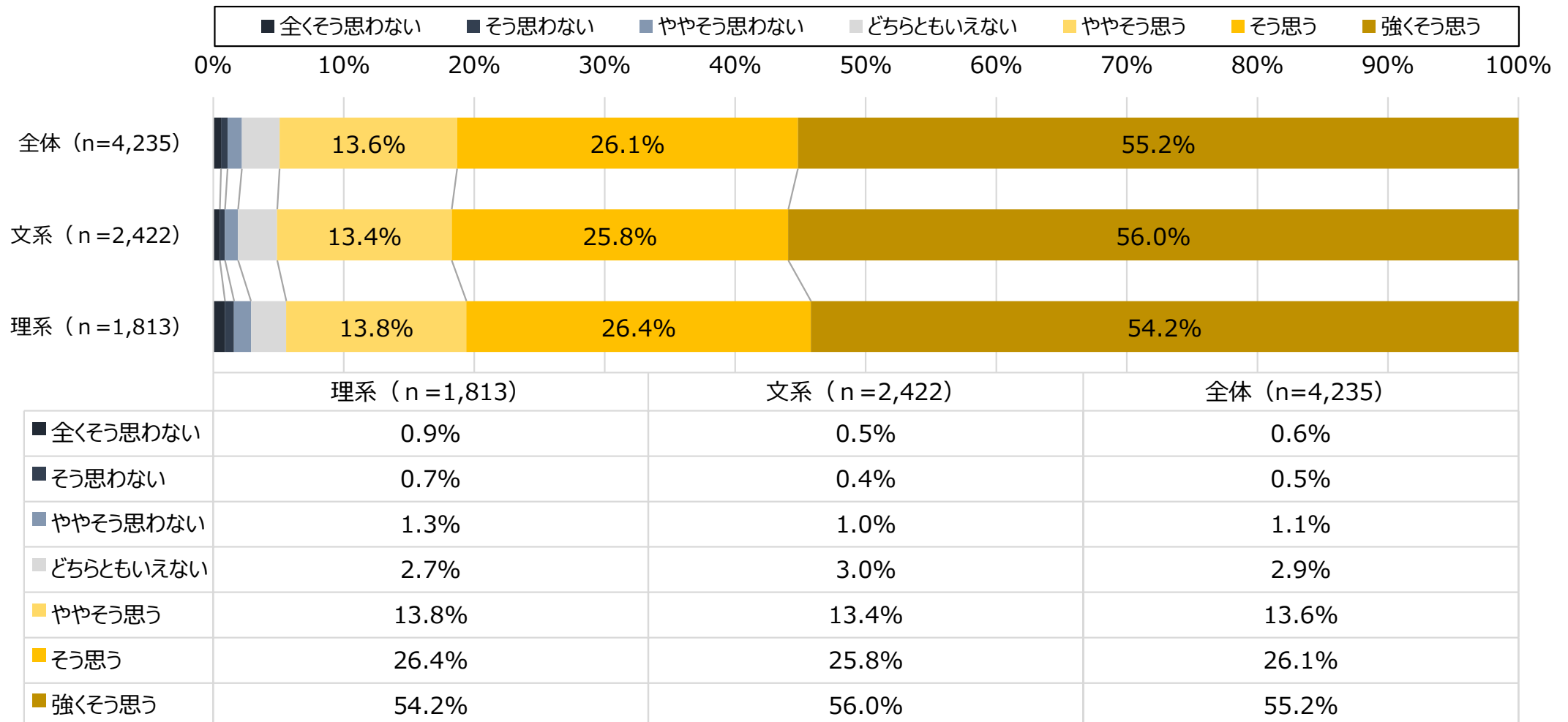
# インターンシップへの総合的な満足度



✓要素による満足度にはややバラつきも見られたが、総合的な満足度としては文理共に95%近くが満足しているという非常に高い満足度を示す結果となった

インターンシップへの総合的な満足度

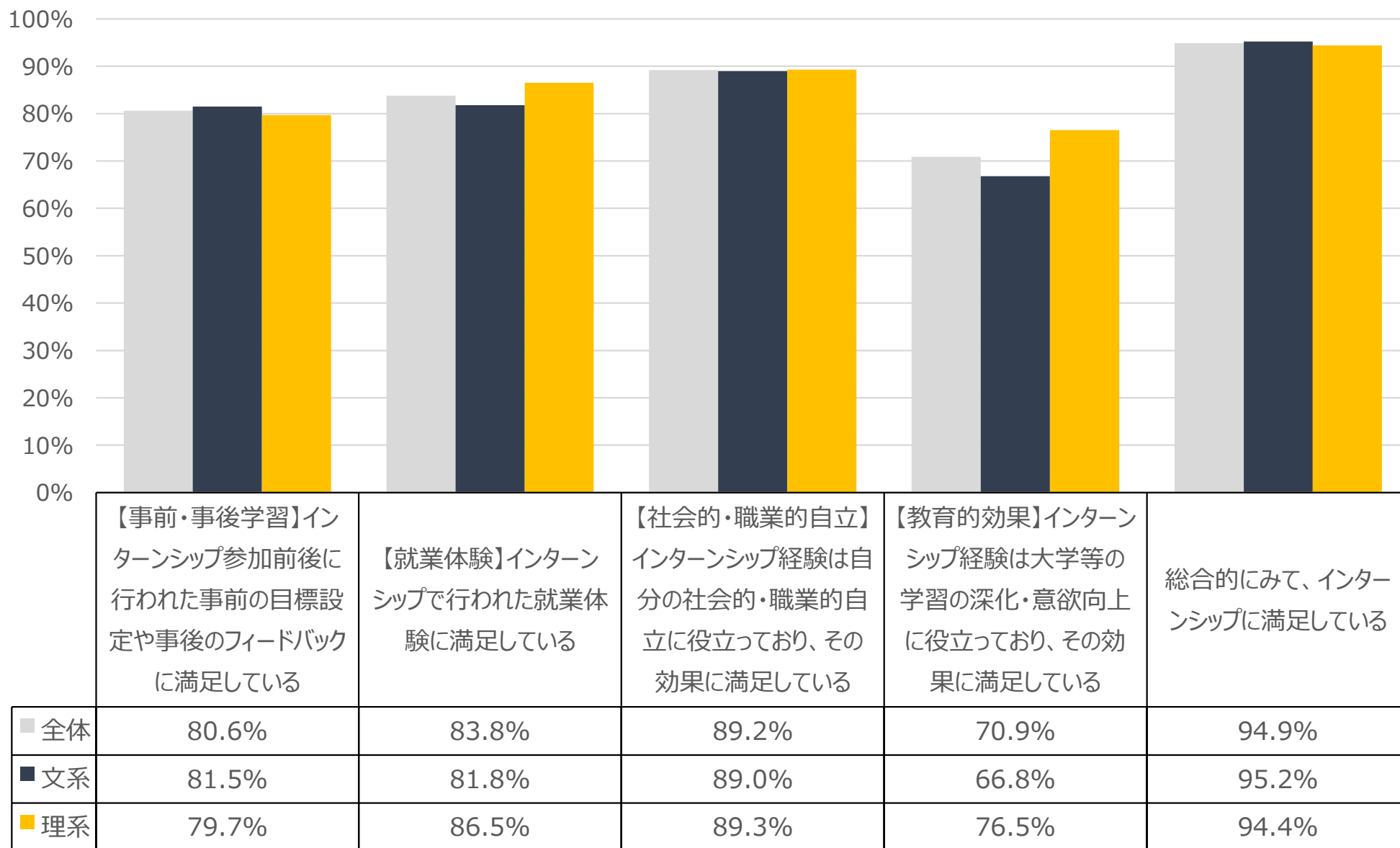
総合的にみて、インターンシップに満足している



# インターンシップ関連の項目別満足度比較（まとめ）



\* 各項目の満足度に関して「ややそう思う」「そう思う」「強くそう思う」を合算





# 現在の大学生活への満足度



✓インターンシップとは関連のない項目であるが、調査対象となった学生グループの「現在の大学生活への満足度」は高く、8.5割を超える学生が「満足していると思う」と回答している

現在の大学生活への満足度

## 現在の大学生活に満足している

